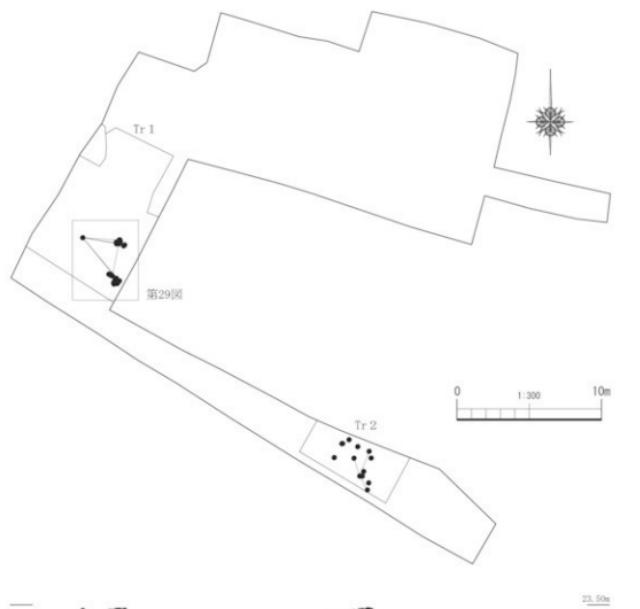


第3節 旧石器時代の遺構と遺物



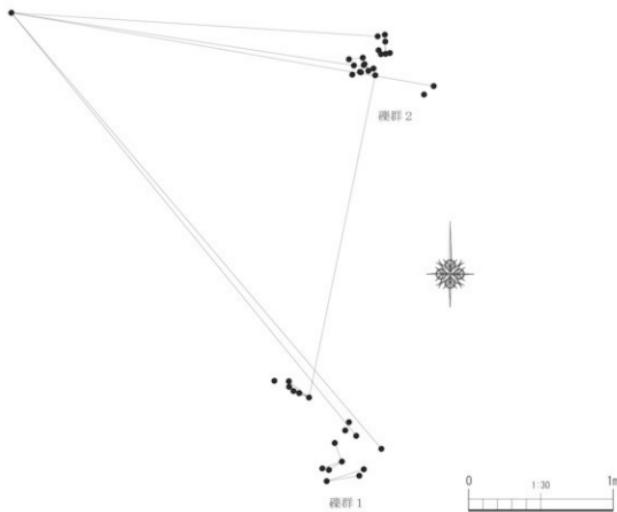
第28図 B区旧石器時代包含層出土標分布図 (S= 1/300)

第2節 基本層序（第27図）

B区の基本層序は第27図の通りである。A区の基本層序と概ね対応するが、A区でみられたアカホヤ火山灰層上の遺物包含層（A区のII～III層）がみられない他、A区のIV層も表土下にわずかに堆積がみられるのみである。鍵層となる火山噴出物はアカホヤ火山灰（II～III層）、牛の脛下部（IV層）、小林降下軽石（V層）、A T層（X層）が確認されている。また、B区南西隅に空いた巨大な搅乱坑の壁面を精査したところ、A T層下位に黒褐色ローム層（XI層）0.25m、暗褐色ローム層（XII層）0.2m、明黄褐色火山灰層（XIII層、霧島アワオコシスコリアか）0.1m以上の土層が堆積していることを確認した。

第3節 旧石器時代の遺構と遺物

旧石器時代の遺構確認のためB区西侧と南側に2ヶ所のトレンチを設定し掘削を行なった。



第29図 B区旧石器Tr 1 出土砾分布図 (S= 1/30)

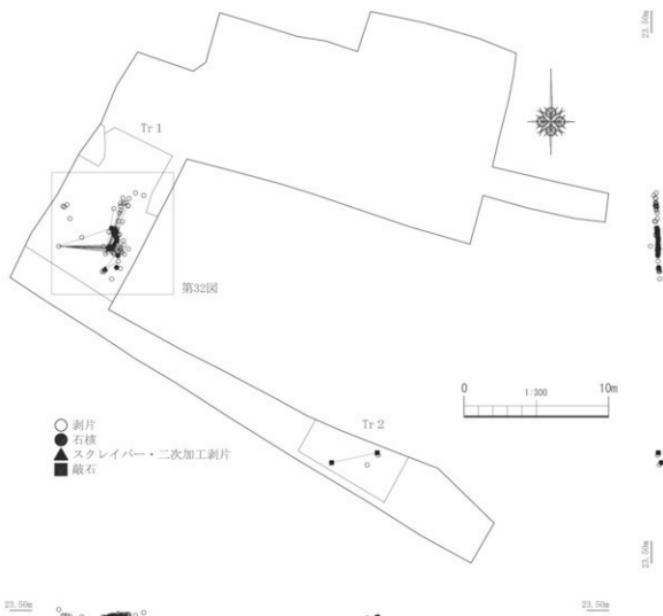
両トレンチはそれぞれ旧地形の谷を挟んで対相する位置にあり、1トレンチは東南向きの斜面、2トレンチは西向きの斜面地となっている。調査の結果、西側の1トレンチからはA T層上位のⅣ層を中心として砾群2基と石器集中部が検出された。また、南側の2トレンチでは小林降下軽石直下のⅢ層の上位部分で砾と遺物の出土が確認された。両トレンチの遺物出土層位が異なり、両者に接合関係がみられないこと、及び地形的にそれぞれ独立していることを踏まえると、これらの石器群は異なる文化層に属する可能性が考えられる。

第1項 砂群 (第28 ~ 29図)

1トレンチにおいて2基の砾群が検出された。2トレンチでも砾が出土し接合関係もみられるが、平面分布が散在しており砾群を構成するものは認められなかった。1トレンチの砾群はそれぞれの構成砾が接合していること、出土レベルも共通していることから比較的近接した時期に形成された可能性が高い。

砾群1 1トレンチ南東隅のⅣ層中で検出された。構成砾の範囲は $0.72\text{m} \times 0.76\text{m}$ を測り、総数は18点、総重量は0.94kgである。砾の接合を試みたところ12点の砾が接合し、さらにトレンチ内に散らばる砾1点と砾群1の構成砾2点が、砾群2の構成砾1点と砾群1の構成砾1点とが接合した。砾はほぼ水平堆積であり、掘り込みは検出されなかった。石材は全て砂岩であり、いずれも熱を受けて赤変している。

砾群2 1トレンチ東側のⅣ層中で検出された。構成砾の範囲は $0.46\text{m} \times 0.6\text{m}$ を測り、総数



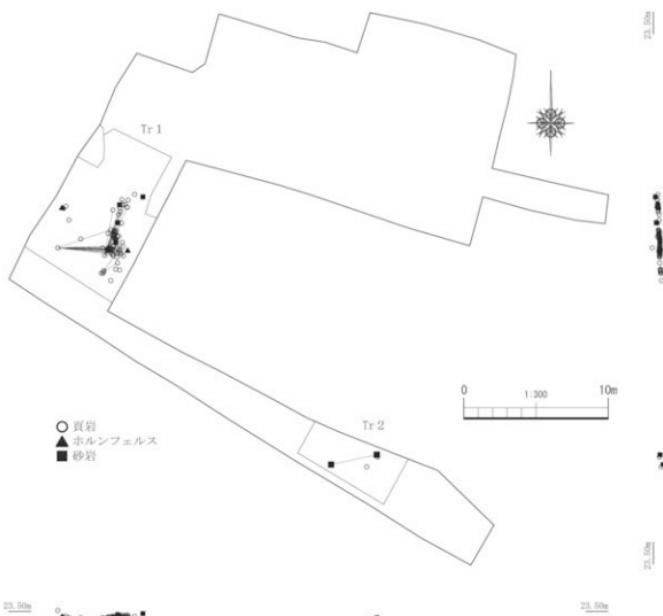
第30図 B区旧石器時代包含層出土石器分布図① (S= 1/300)

は22点、総重量は1.6kgである。礫の接合を試みたところ8点が接合し、さらにトレンチ内に散らばる礫1点と礫群2の構成礫3点が、礫群1の構成礫1点と礫群2の構成礫1点とが接合した。礫はほぼ水平堆積であり、掘り込みは検出されなかった。石材は全て砂岩であり、いずれも熱を受けて赤変している。

第2項 包含層出土遺物（第30～31図）

1 トレンチ出土遺物(第32図) 1トレンチでは主にIX層を中心として遺物が出土した。特筆すべきは礫群1、2に重複する形で検出された石器集中部で、その範囲は6.1m×6.3mを測る。この石器集中部からは3点の接合資料と単体の石核2点、スクレイパー4点、敲石1点を中心とした遺物82点が出土している。剥片石器の石材は頁岩を主体としており、ホルンフェルスは3点しかみられない。今回報告した剥片石器はいずれも頁岩製である。以下、器種ごとに個別に報告する。

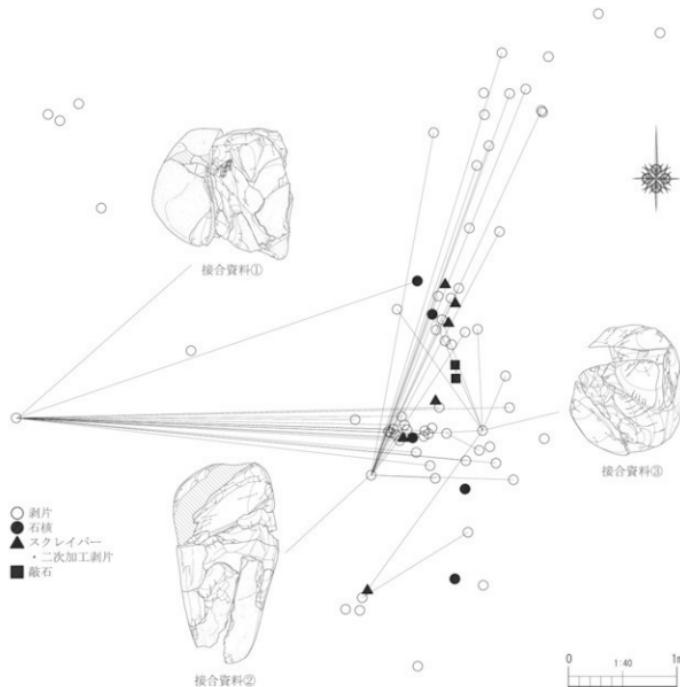
接合資料(第33～38図) 3点が出土した。①は石核3点とスクレイパー1点、剥片13点の計17点が接合したものである。素材となる自然礫を2分割（あるいは3分割）した後、それぞ



第31図 B区旧石器時代包含層出土石器分布図② (S= 1/300)

れ別の方向から剥片剥離を行なったものである。剥離はまず礫をA(107～110)とB(111～123)に分割し、Aは自然面を打面としてさらに107～109のグループと110に分割しているが、その際摺理面で剥離している。その後109を石核として107→108の順番で剥片剥離を行なっている。Bは自然面を除去した後に121の石核を作出し、そこから122と123の目的剥片を剥離している。121は素材となる礫の剥離面1面を打面とし、縁辺を利用して2面の作業面を設けた石核である。122は幅広の継長剥片の片側縁に2次加工を施したスクレーパーである。背面の一部に自然面を残している。123も目的剥片の一つと考えられる継長剥片である。背面は全体が節理面となっている。

②は剥片16点が接合したものである。①と同様に素材となる自然礫を2分割した後、それぞれ別の方向から剥片剥離を行なっている。剥離はまず礫の自然面を一部除去し(136)その後A(124～128、130、132～135、137～138)とB(129、131、139)に2分割している。Aはさらに自然面の除去を行なうための剥離を同一方向から連続して加えているが、節理面で割れたイレギュラーな剥片が多く認められる。自然面を除去した後に残る中心部分が欠落していることから、素材剥片として持ち出されたものと考えられる。Bの129、131、139は自然面除去

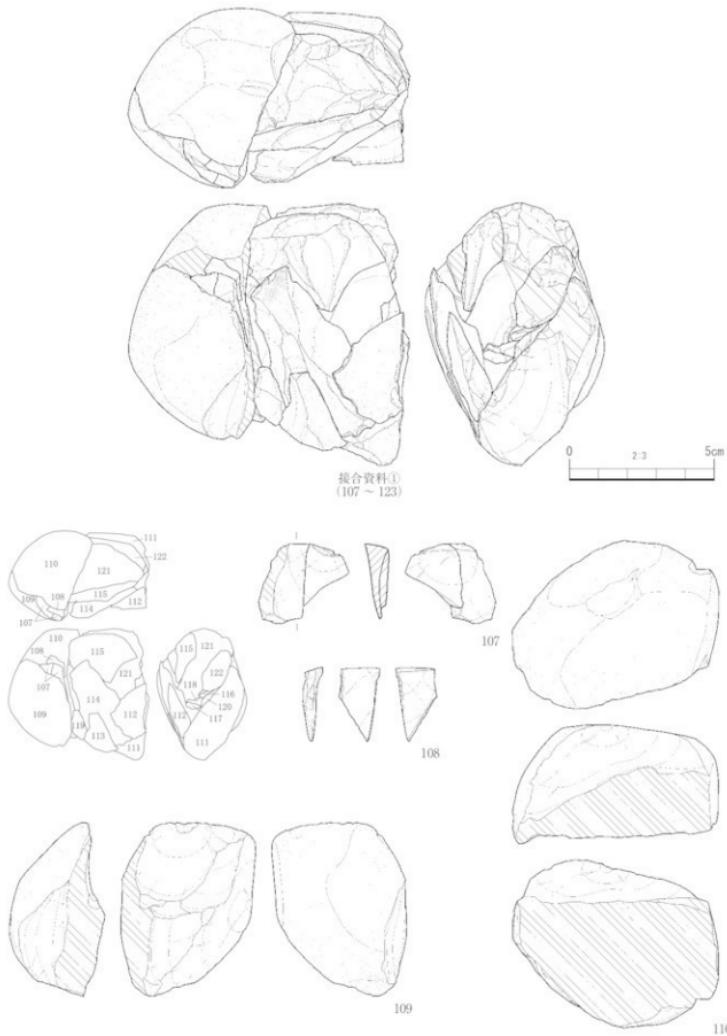
第32図 B区旧石器Tr 1出土石器分布図 ($S = 1/40$)

により作出された剥片である。Aと同様に自然面除去を行なった後の中心部分が欠落しており、石核あるいは素材剥片として持ち出されたのであろう。

③は石核1点と剥片7点が接合したものである。素材となる礫に複数方向から剥離を加えることで自然面を除去し、147の石核を作出し、目的剥片の剥離を行なったものである。剥離の順番は141→142→140→数枚の剥片剥離→145→143→144→数枚の剥片剥離→146である。147の石核は片面に自然面を多く残すもので、打面と作業面を転移しながら剥片剥離を行なったものである。146は自然面がみられない剥片で、目的剥片の一つと考えられるものである。

石核(第39図) 2点が出土した。148は自然面を多く残す石核である。素材となる礫の一面の自然面を除去して打面を作出し、同一方向からの連続した剥片剥離を行なったものである。149は石核の平坦な一面を打面とし、作業面を転移しながら剥片剥離を行なったものである。

スクレイバー(第39図) 4点が出土した。150は同自然面を残す横長剥片を素材とし、片側縁に二次加工を加えたものである。151は不定方向からの剥離で作出された剥片を素材とし、

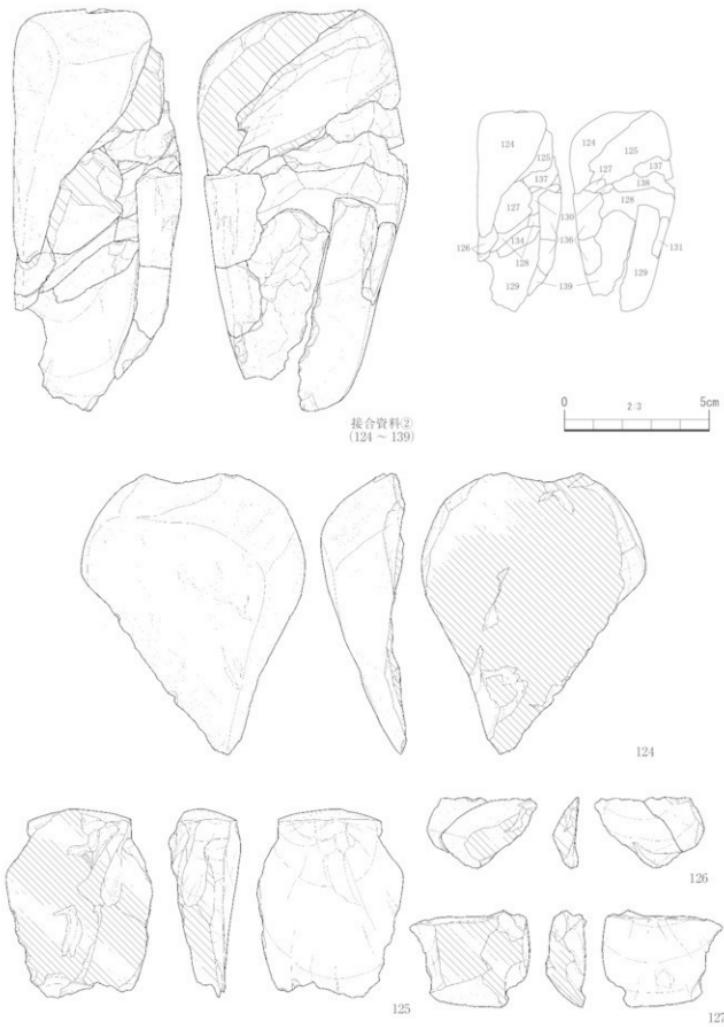


第33図 B区旧石器時代包含層出土遺物実測図① (S= 2 / 3)

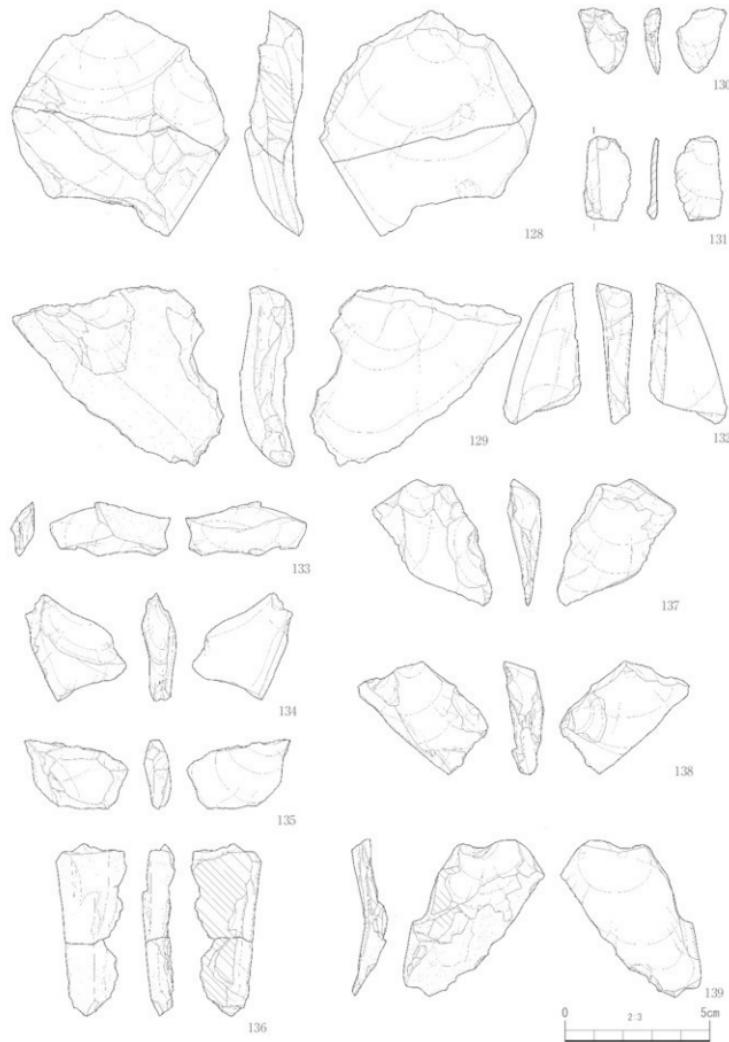
第3節 旧石器時代の遺構と遺物



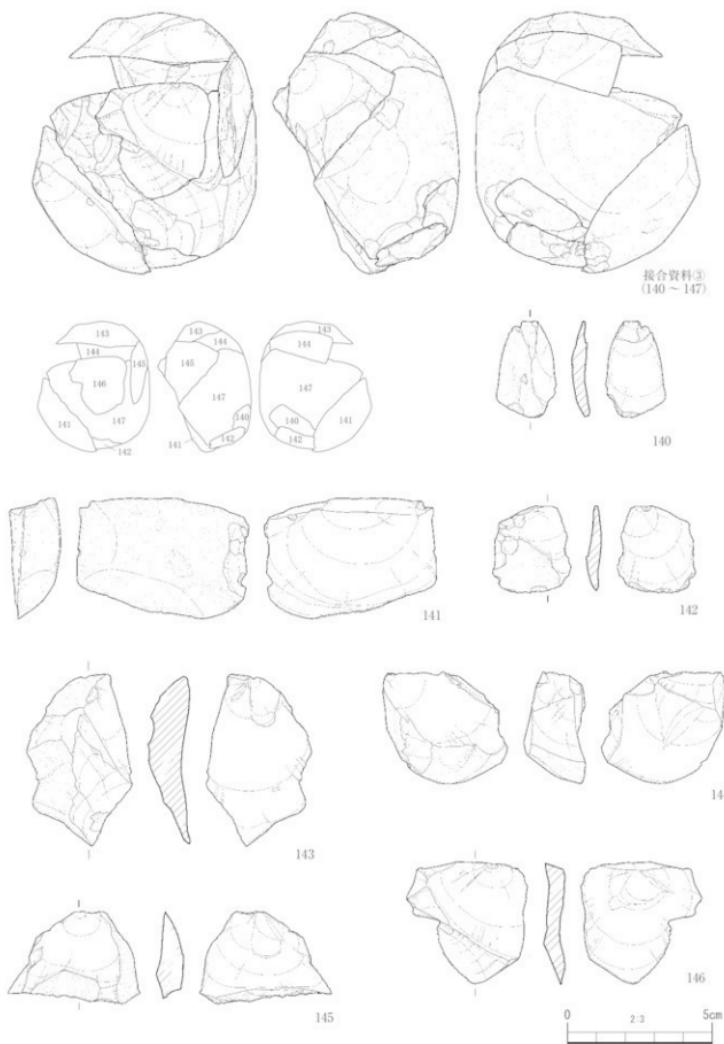
第34図 B区旧石器時代包含層出土遺物実測図② (S= 2 / 3)



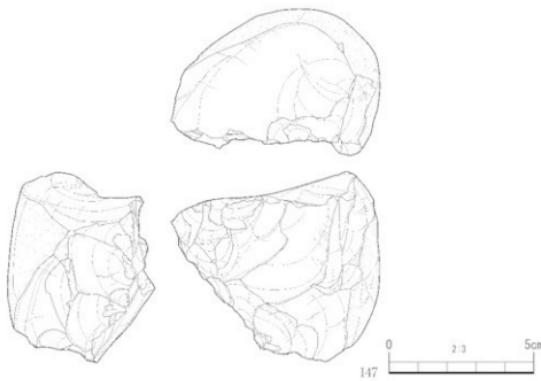
第35図 B区旧石器時代包含層出土遺物実測図③ (S= 2 / 3)



第36図 B区旧石器時代包含層出土遺物実測図④ (S= 2 / 3)



第37図 B区旧石器時代包含層出土遺物実測図⑤ (S= 2 / 3)



第38図 B区旧石器時代包含層出土遺物実測図⑥ (S= 2/3)

片側縁に二次加工を加えたものである。背面の一部に自然面を残している。152は横長の剥片の縁辺部を素材としたもので、片側縁に二次加工を加えたものである。153はやや厚みのある横長剥片を素材としたもので、片側縁に二次加工を加えたものである。二次加工は背面と腹面から行なわれている。

敲石(第40図) 1点が出土した。157は砂岩製の敲石で、素材となる礫の縁辺部に敲打痕とそれによる剥離が認められる。重量は415.2gを測る。礫群の構成礫として使用されたのか、熱を受け赤変している。

2トレンチ出土遺物 2トレンチではⅣ層から遺物が出土した。石器集中部が検出された1トレンチと比較すると出土量は少ないが、ナイフ形石器1点、剥片3点、敲石1点が出土している。剥片石器の石材は頁岩のみである。以下、器種ごとに個別に報告する。

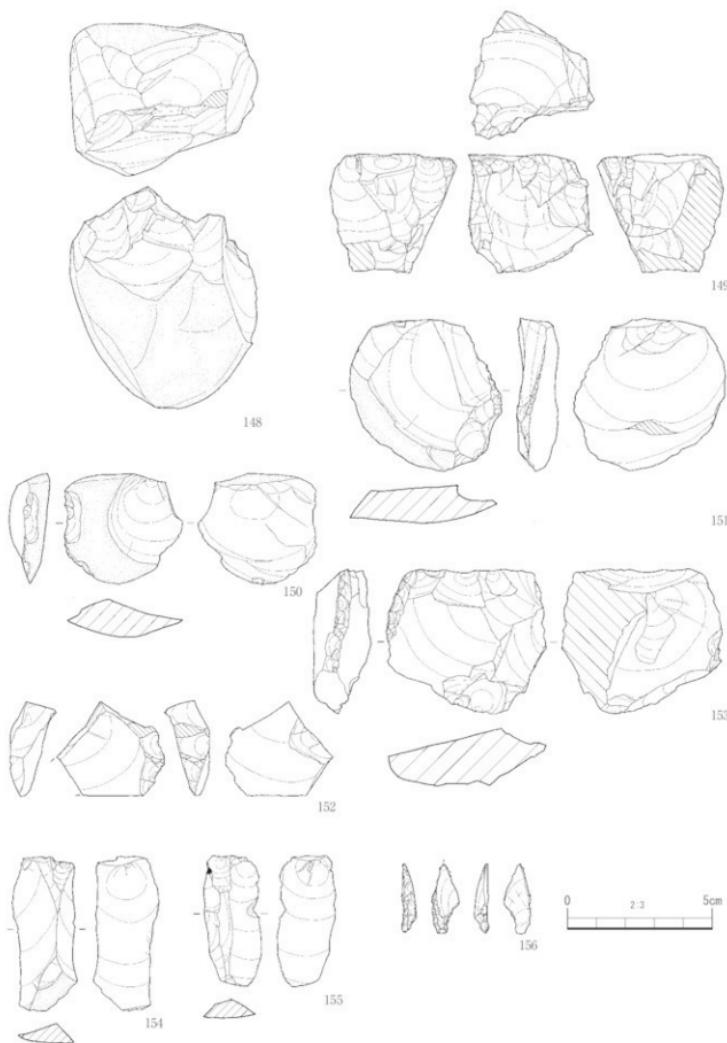
剥片(第39図) 2点が出土した。いずれも縦長剥片である。154は同一方向からの連続した剥離により作成されたものである。

ナイフ形石器(第39図) 1点が出土した。長さ24cm、幅0.9cmと小型である。縦長剥片を素材とし、両側縁に二次加工を加えたものである。

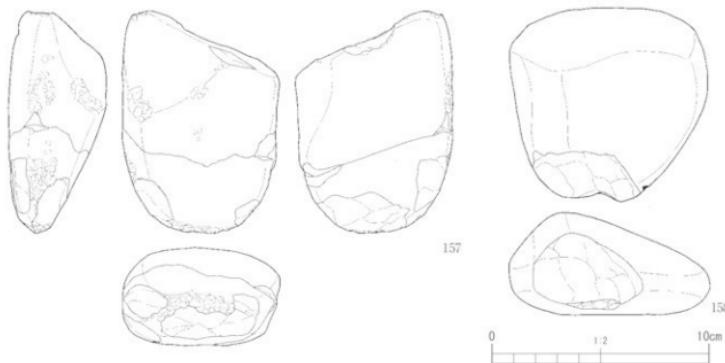
敲石(第40図) 1点が出土した。158は砂岩製の敲石で、素材となる礫の頂部に敲打痕とそれによる剥離が認められる。重量は452.3gを測る。

第4節 繩文時代早期の遺物

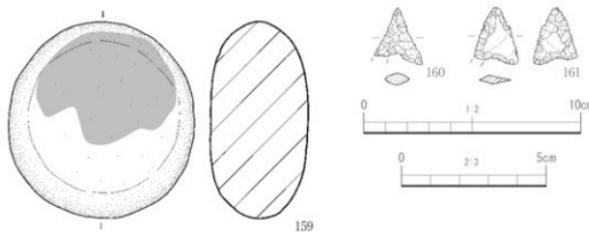
基本層所トレンチ掘削の際、アカホヤ火山灰層下のⅣ層から打製石器2点と頁岩製剥片1点が出土した他、古代の堅穴住居埋土中から磨石1点が出土した。土器の出土はみられない。ここでは石器と磨石について個別に報告する。



第39図 B区旧石器時代包含層出土遺物実測図⑦ (S= 2 / 3)



第40図 B区旧石器時代包含層出土遺物実測図⑧ (S= 1 / 2)



第41図 B区縄文時代早期包含層出土遺物実測図 (S= 2 / 3・S= 1 / 2)

磨石(第41図) 1点が出土した。159は尾鈴山酸性岩製の磨石で、円盤の片面に光沢を持つ磨面が認められる。重量は529.6gである。

打製石鎌(第41図) 2点が出土した。160はチャート製の打製石鎌である。平面形は二等辺三角形を呈し、基部に明瞭な抉りを有する。横断面がやや厚みをもち、二次加工は全体に及んでいる。また、左の基部が欠損している。161は姫島産黒曜石製の打製石鎌である。平面形は二等辺三角形を呈し、基部の抉りはやや浅い。二次加工が周縁部に留まり、素材剥片の形状をよく残すものである。左の基部が欠損している。

第5節 古代の遺構と遺物（第42図）

II層上面において遺構検出を試みたところ、多数の遺構が検出された。遺構が確認されたのは調査区北側を中心とした範囲であり、削平の影響か南側には確認されなかった。遺構の重複

が激しい上に埋土の土質が類似していたため、検出にはかなりの困難を伴った。

第1項 壊穴住居

壊穴住居13(第44図) B区東端部で検出された。住居の中央部以外は調査区外に広がっている他、東側が搅乱溝により消失しているため遺構の規模や平面形は不明瞭であるが、方形を基調とするプランと推測される。地山ブロックを含む黒褐色土で貼床を形成している。住居内で柱穴は検出されなかった。住居の北東隅に土器埋設炉が設置されている。炉には胴下半を打ち欠いた土師器壺（あるいは瓶か）を用いているが、上半部も破片が欠落しており全周を復元することができない。削平のため表土直下に貼床面が検出されたことから、遺物の出土量は少ない。162は土器埋設炉に設置された壺もしくは瓶である。胴部から直線的に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する形状である。163は床面出土の土師器壺あるいは瓶であり、162と同一個体と考えられる。

壊穴住居14(第45~46図) B区北側で検出された。壊穴住居15よりも後出する。北西隅が搅乱坑により消失している。平面形は東西3.59m×南北3.24mの方形を呈する。地山ブロックを含む黒褐色土で貼床が形成されている。住居内で柱穴は検出されなかった。住居中央部に土器埋設炉が設置されている。炉には土師器壺の口縁部と胴下半を打ち欠いたものを用いており、土器の周縁部に帯状の焼土が認められた。

遺物は埋土中と床面から出土している。164は土器埋設炉に設置された土師器壺である。球形胴で口縁部はく字状を呈する。回転台成形で、内面に縱位のケズリが認められる。165は土師器壺である。口縁部がく字に外反し、外面にはヨコナデにより凹みを有する。166は土師器壺である。内外面にケズリ調整が施され、口縁部はヨコナデによりわずかに外反する。167~168は土師器の高台付壺である。167は断面方形の大ぶりな高台を有する。168は断面三角形で端部が外に張り出す高台を有する。169~170は土師器の壺である。169は残存状態の良好なもので、付部は浅く皿状の器形である。胎土と色調が他の土師器壺と比較するとやや異質である。171~174は須恵器蓋である。174は器高が高く壺状の形状を呈する。175は須恵器壺である。頸部がS字状に湾曲しながら立ち上がる形状を呈する。

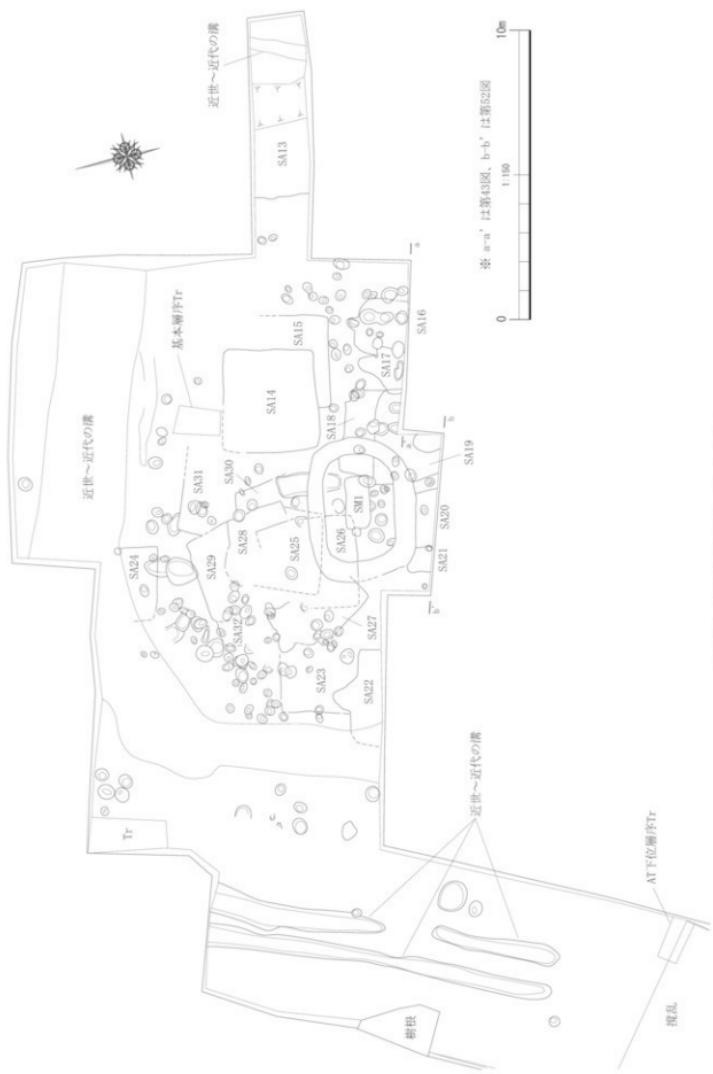
壊穴住居15(第45~46図) B区北側で検出された。壊穴住居14に先行し、北東隅が搅乱坑により消失しているため全体の規模は不明瞭であるが、東西3.22m×南北3.02m以上の方形を呈すると推測される。地山ブロックを含む黒褐色土で貼床が形成されている。住居内で柱穴は確認されなかった。中央やや東寄りの床面にカマドの構築に用いられたと考えられるにぶい黄褐色粘土のブロックがみられるが、カマドは検出されていない。

遺物は少なく、図化に耐えうるものは1点のみである。176は須恵器蓋である。わずかに丸みを帯びる体部で、端部が下方に拡張する。

壊穴住居16(第47図) B区北側で検出された。壊穴住居17に先行する。南側が調査区外に広がっているため全体の規模は不明であるが、東西2.0mで本遺跡の壊穴住居の中では小型である。地山ブロックを含む黒褐色土で貼床が形成されている。住居内の貼床面で柱穴が1基検出されたが、本住居に伴うものではない可能性がある。

遺物は少量で、その内3点を図化した。179は土師器壺である。器壁が薄く胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。180は土師器の布痕土器である。ユビオサエにより成形されて

第5節 古代の遺構と遺物



第42図 B区遺構配置図 (S= 1/150)

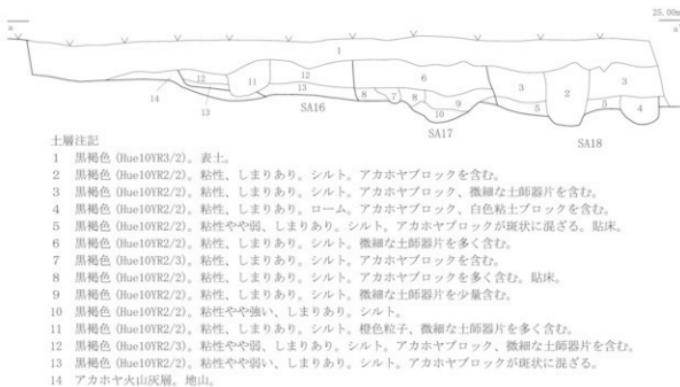


図43 B区南壁面土層実測図 (S= 1/40)

おり、熱を受けている。181は須恵器の壺である。器壁が薄く直線的に胴部が立ち上がり、口縁部端部がわずかに外反する。

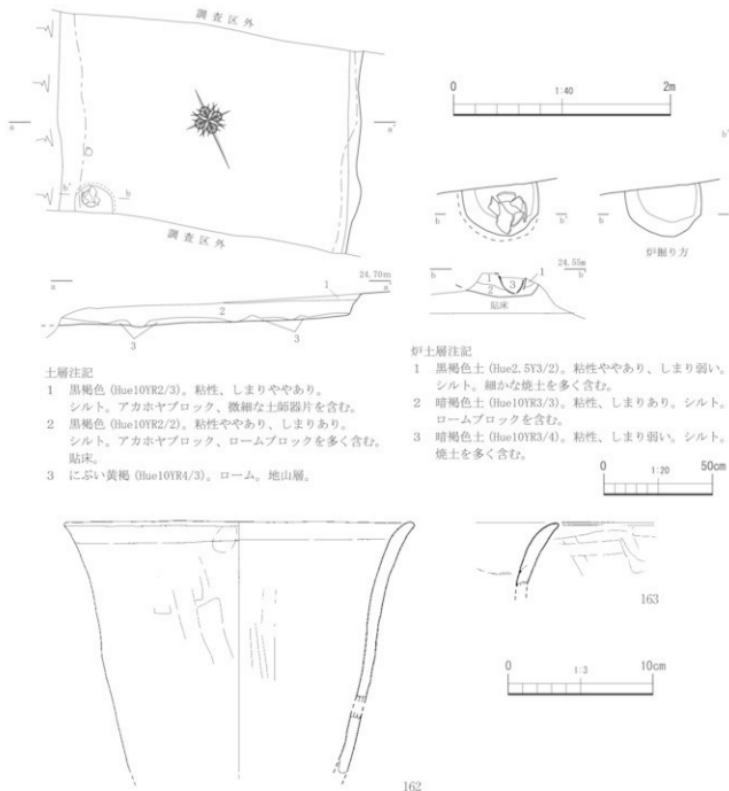
竪穴住居17(第48~49図) B区北側で検出された。竪穴住居16より後出し、竪穴住居18に先行する。南側が調査区外に広がっており全体の規模は不明瞭であるが、方形の平面形を呈すると推測される。北側にカマドの掘り方と思われる土坑が接続しているが、上部構造は残存していないかった。

遺物は埋土中から少量出土している。182 ~ 186は土師器の壺である。182は胴部がやや丸みを帯びて立ち上がるるものである。184と185は高台付壺である。186は外面にケズリ調整を施し、口縁部にヨコナデを施すものである。187は須恵器の壺である。小破片であり全体の形状は不明瞭である。

竪穴住居18(第50~51図) B区北側で検出された。竪穴住居17より後出し、竪穴住居19と周溝墓1に先行する。竪穴住居19に重複しており全体の規模は不明瞭であるが、東西は285mを測る。平面形は方形と推測されるが、北辺の形状はややいびつである。住居東北隅にカマドが設置されている。焼土とぶい褐色粘土の広がりが検出されたが、掘削の結果カマドの上部構造は残存していないことが判明した。一方で支脚として設置された土師器壺は機能面にそのまま残されていた。

遺物は少量である。188はカマドに設置された土師器壺である。胴部下半部に内面→外面上の穿孔がみられる。189は土師器鉢とみられる。底部は尖底あるいは丸底と推測され、丸みを帯びながら口縁部に至り、口縁部は内湾する。粘土紐接合痕を残している。190は須恵器壺である。191は砂岩製敲石である。熱を受け赤変している。

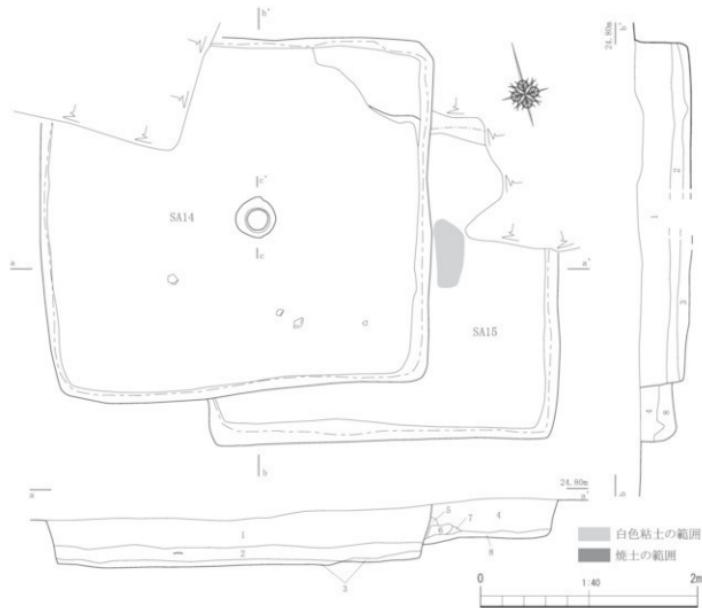
竪穴住居19(第50~51図) B区北側で検出された。竪穴住居18より後出し、周溝墓1に先行する。一部が調査区外に広がっている。平面形はややゆがんだ方形を呈すると推測され、東西の規模は3.3mを測る。地山ブロックを含む黒褐色土で貼床が形成されている。住居内で柱



第44図 B区竪穴住居13実測図 (S=1/40)、土器埋設炉実測図 (S=1/20)、出土遺物実測図 (S=1/3)

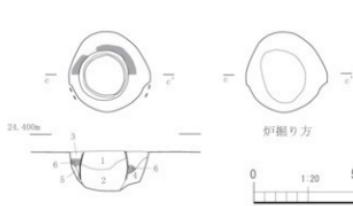
穴は検出されなかった。遺物は少量で、図化に耐えうるものは少ない。192は土師器壺である。丸底で、外面に記号文と思われる線刻が認められる。193は土師器の蓋である。器高が低く端部が下方に拡張する。194は羽口である。強く熱を受けており、ガラス質の付着が顕著にみられる。

竪穴住居20(第52~53図) B区北側で検出された。竪穴住居21より後出し、周溝墓1に先行する。南側が調査区外に広がっている。周溝墓1により北側を消失しており全体の規模は不明瞭であるが、東西の規模は約1.9mと小型である。地山ブロックを含む黒褐色土で貼床が形成



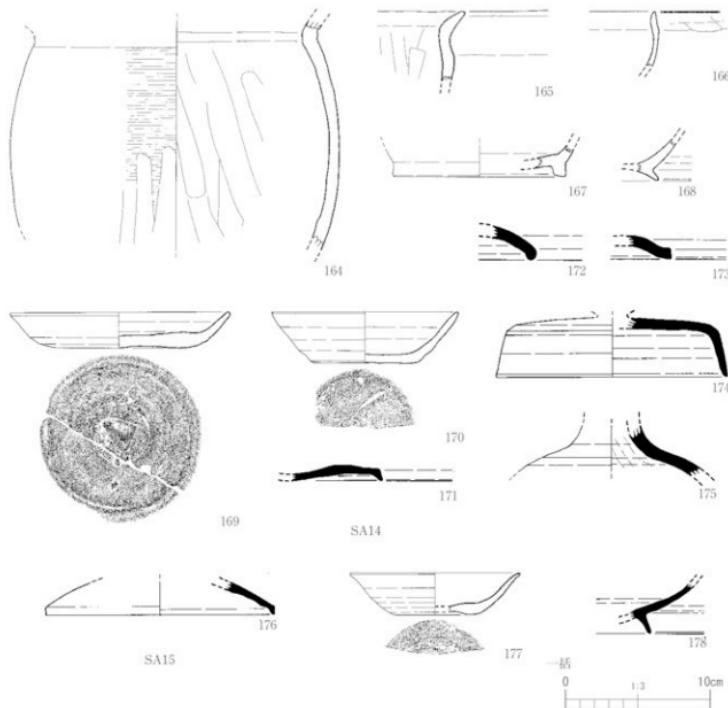
土層注記

- 1 黒褐色 (hue10YR2/3)。粘性、しまりややあり。シルト。アカホヤブロック、炭化物、細かな土器片を含む。
- 2 黒褐色 (hue10YR2/2)。粘性ややあり、しまりあり。シルト。アカホヤブロック、ロームブロック、細かな土器片を多く含む。貼床。
- 3 黄褐色 (hue10YR4/4)。粘性、しまりあり。ローム。2層がブロック状に混じる。貼床。
- 4 黑褐色 (hue10YR2/2)。粘性、しまりややあり。シルト。アカホヤブロック、炭化物を含む。
- 5 黑褐色 (hue10YR3/2)。粘性ややあり。しまりあり。シルト。細かなアカホヤブロックと6層土を含む。
- 6 にい黄褐色 (hue10YR5/4)。粘性あり、しまり強い。粘土。5層土を斑状に含み、硬くしまる。カマドの残骸か。
- 7 5層に類似するが、やや硬くしまる。
- 8 黑褐色 (hue10YR3/2)。粘性ややあり、しまりやや強い。シルト。アカホヤブロック、ロームブロックを多く含む。貼床。



- 炉土層注記
- 1 黒褐色 (hue10YR2/2)。粘性あり、しまりやや弱い。シルト。アカホヤブロック、焼土を少量含む。
 - 2 黑褐色 (hue10YR2/2)。粘性あり、しまり弱い。シルト。灰白色土、焼土、炭化物を多く含む。
 - 3 黑褐色 (hue10YR2/3)。粘性あり、しまりやや弱い。シルト。アカホヤブロック、焼土、炭化物を含む。
 - 4 黑褐色 (hue10YR2/3)。粘性、しまりあり。シルト。アカホヤブロック、焼土、炭化物を少量含む。
 - 5 黑褐色 (hue10YR2/3)。粘性、しまりあり、シルト。焼土を含む。
 - 6 明赤褐色 (hueSYR5/8)。粘性なし、しまりあり。被熱により焼成化したものか。

第45図 B区竪穴住居14・15実測図 (S= 1/40)、土器埋設炉実測図 (S= 1/20)

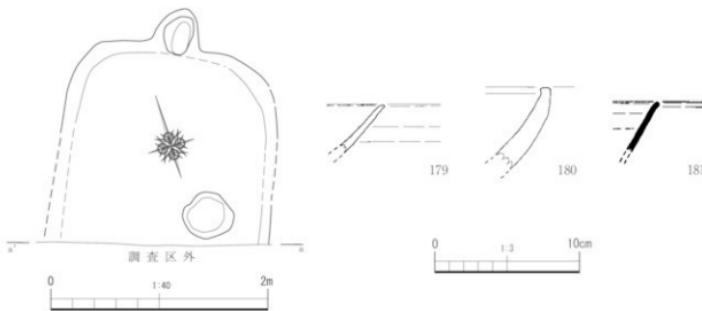


第45図 B区竪穴住居14・15出土遺物実測図 (S= 1 / 3)

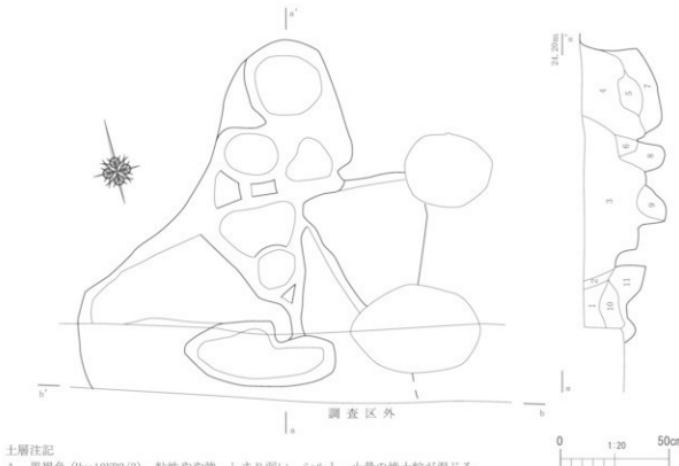
されている。住居内で柱穴は検出されなかった。

遺物は埋土中から多く出土している。196～199は土器器坏である。199は皿状の形状を呈し、内面にミガキが施される。200は土器器壺である。須恵器模倣品で、内外面にタタキ痕が認められる。201は須恵器壺である。断面方形の高台を有する。

竪穴住居21(第52～53図) B区北側で検出された。竪穴住居20と周溝墓1に先行する。南側が調査区外に広がっている。住居北東隅しか検出していないため全体の規模は不明瞭であるが、方形を基調とした平面形と推測される。地山ブロックを含む黒褐色土で貼床が形成されている。住居内で柱穴は検出されなかった。北東隅に土器埋設炉が設置されている。後出する柱穴により南端と北側を消失しているが、胴部下半を打ち欠いた壺を用いており、土器の周縁部に帶状の焼土が認められた。遺物は少なく、土器埋設炉に設置された壺のみ図化した。195は



第47図 B区竪穴住居16実測図 (S= 1/40)、出土遺物実測図 (S= 1/3) ※a-a' の土層図は第43図



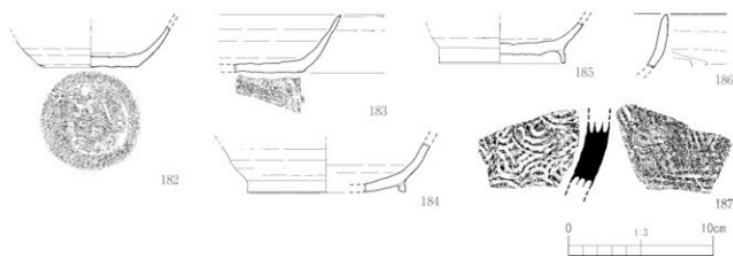
土層記

- 1 黒褐色 (Hue10YR2/3)。粘性やや強、しまり弱い。シルト。小量の燒土粒が混じる。
- 2 暗赤褐色 (Hue2, 5YR2/2)。粘性やや弱、しまり弱い。シルト。燒土粒を多く含む。
- 3 黒褐色土 (Hue5YR2/2)。粘性あり、しまり弱い。シルト。燒土粒と白色粒子を多く含む。
- 4 黑褐色土 (Hue10YR2/2)。粘性やや弱、しまり弱い。シルト。細かなアカホヤ粒子、微細な土師器片を含む。
- 5 黑色土 (Hue10YR1.7/1)。粘性あり、しまり強い。シルト。細かなアカホヤ粒子を含む。
- 6 黑褐色土 (Hue10YR2/2)。粘性やや弱、しまりやや強い。シルト。燒土粒を含む。
- 7 極暗褐色土 (Hue7, 5YR2/3)。粘性、しまり弱い。シルト。細かなアカホヤ粒子を多量に含む。
- 8 黑褐色土 (Hue10YR2/3)。粘性、しまり強い。シルト。細かなアカホヤ粒子を含む。
- 9 暗褐色土 (Hue6.7, 5YR2/4)。粘性、しまり強い。シルト。細かな白色粒子を多く含む。
- 10 黑褐色土 (Hue7, 5YR2/2)。粘性、しまり弱い。シルト。細かな白色粒子、燒土ブロックを含む。
- 11 明赤褐色土 (Hue5YR5/8) の燒土ブロックと極暗褐色土 (Hue7, 5YR2/3) のシルトブロック、明黄褐色土 (Hue10YR7/6) の砂質土が混じる層。非常にしまりが強い。カマド構築土か。

第48図 B区竪穴住居17実測図 (S= 1/20) ※a-a' の土層図は第43図



第5節 古代の遺構と遺物



第49図 B区竪穴住居17出土遺物実測図 (S= 1 / 3)

土師器壺である。胴が張り口縁部がく字に外反するもので、外面に横位の粗いミガキが認められる。胴部に粘土紐接合痕を残している。

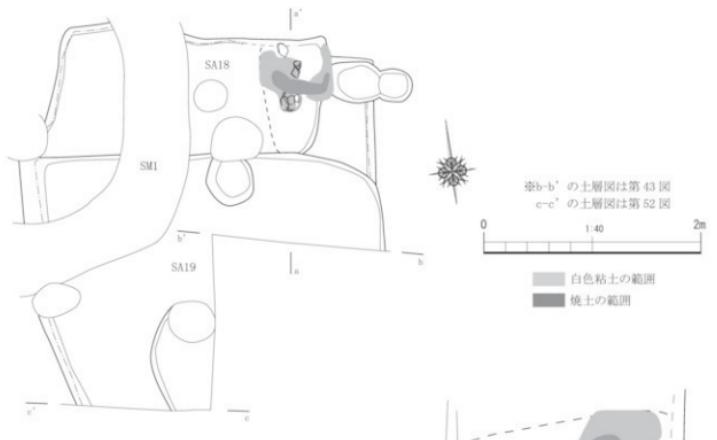
竪穴住居22(第54図) B区北側で検出された。近世～近代の溝により西辺を消失している他、北辺の一部を後出す柱穴により破壊されている。南側は調査区外に広がっている。全体の規模は不明瞭であるが、東西2.87m以上の方形を基調とした平面形を呈すると推測される。地山ブロックを含む極暗褐色土で貼床が形成されている。住居内で柱穴は検出されなかった。

遺物は埋土中と床面から出土している。202～203は土師器壺である。口縁部がく字に外反するもので、203は口唇部が丸みを帯びる。204～207は土師器壺である。207は復元底径14.4cmとやや大型の壺で、胎土に宮崎小石を含むものである。208～209は須恵器壺である。208は直線的に胴部が開き口縁部がわずかに外反する。209は端部が張り出す高台を有するものである。高台下に焼成時の付着物が認められる。210は須恵器長胴壺である。短く外反しながら立ち上がる複合口縁を有する。

竪穴住居23(第55図) B区北側で検出された。削平により南側が消失している他、北東隅と住居中央部が搅乱坑により失われている。検出面から掘り方面までが浅く、貼床面まで削平を受けている。平面形は方形を基調とするが、全体の規模は不明瞭である。地山ブロックを含む暗褐色土で貼床が形成されている。住居内で柱穴は検出されなかった。遺物は貼床内からわずかに出土したのみである。211は土師器壺である。外底面に墨書が認められるが、小破片のため判読することはできない。

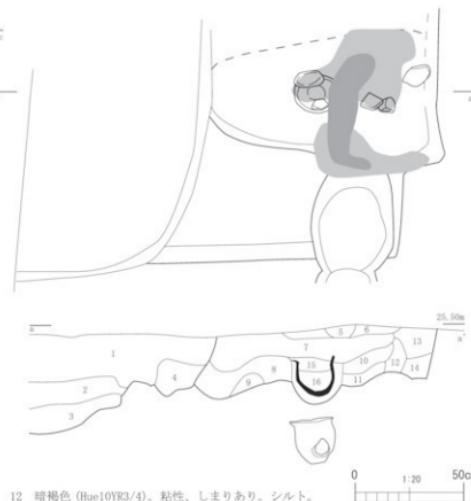
竪穴住居24(第56図) B区北側で検出された。近世～近代の溝により北側を消失しており、南側も柱穴により残存状況が悪い。検出面から掘り方面までが極めて浅く、上部のほとんどは削平を受けている。なお、この住居周辺から北側は検出面であるアカホヤ火山灰層が削平により失われている。全体の規模は不明瞭であるが、平面形は方形を基調とすると推測される。地山ブロックを含む黒褐色土で貼床が形成されている。住居内で柱穴は検出されなかった。遺物は微量しか出土しておらず、図化に耐え得るものはない。

竪穴住居25(第57図、第59図) B区北側で検出された。竪穴住居26、28より後出し、周溝墓1に先行する。重複が激しく、土層観察用ベルトの断面から復元した住居である。東西が2.85m

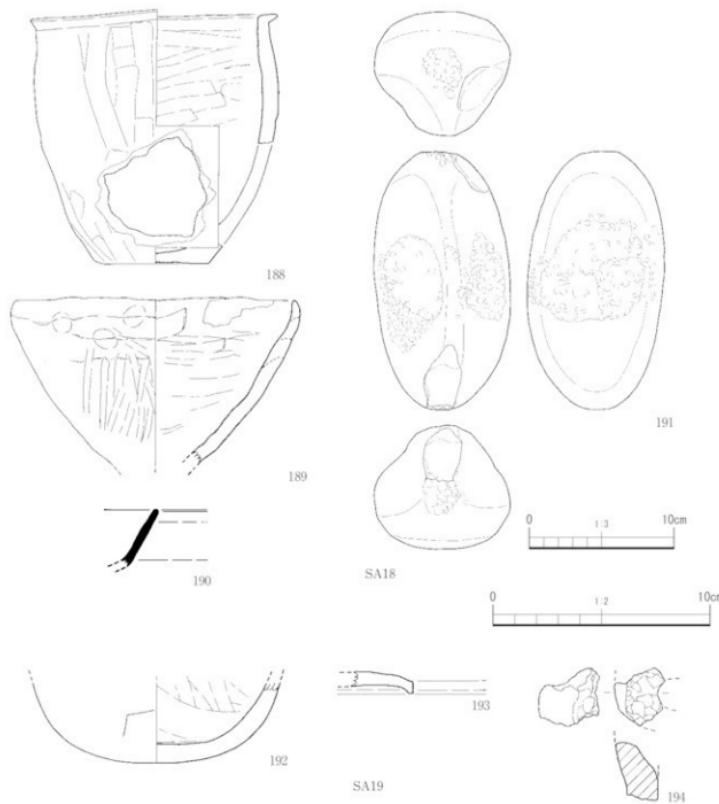


土層注記

- 1 暗褐色 (Hue10YR3/4)。粘性やや弱い、しまりやや強い。シルト。白色、橙色粒子を含む。
- 2 黒褐色 (Hue10YR2/3)。粘性、しまりやや弱い。シルト。白色、橙色粒子を多く含む。
- 3 黒褐色 (Hue10YR2/2)。粘性、しまりやや弱い。シルト。白色粒子をわずかに含む。
- 4 黑褐色 (Hue10YR2/3)。粘性弱い、しまりやや強い。シルト。アカホヤブロック。白色粒子を含む。
- 5 明赤褐色 (Hue5YR5/8)。粘性無し、しまり強い。燒土。
- 6 にぶく褐色 (Hue7.5YR4/6)。粘性無し、しまり強い。粘土。燒土粒子を含む。
- 7 黑褐色 (Hue7.5YR4/6)。粘性弱い、しまり強い。シルト。白色粘土、燒土を多く含む。
- 8 暗褐色 (Hue10YR3/3)。粘性弱い、しまりやや弱い。シルト。白色粘土、燒土を多く含む。
- 9 黑褐色 (Hue10YR2/3)。粘性、しまりあり。ローム。
- 10 明赤褐色 (Hue5YR5/8)。粘性、しまり弱い。燒土。
- 11 黑褐色 (Hue10YR2/3)。粘性やや弱い、しまりあり。シルト。アカホヤブロック。燒土を多く含む。



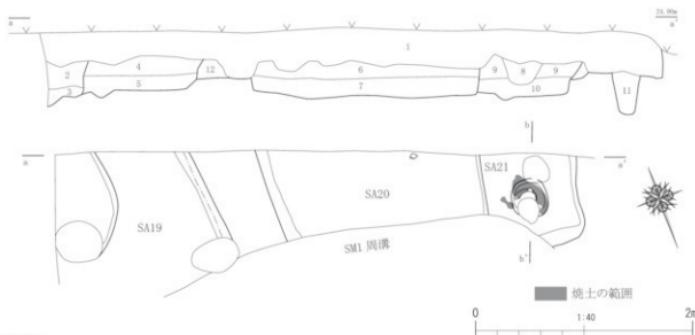
第50図 B区竪穴住居18・19実測図 (S= 1 / 40)、カマド実測図 (S= 1 / 20)



第51図 B区竪穴住居18・19出土遺物実測図 (S= 1/3・1/2)

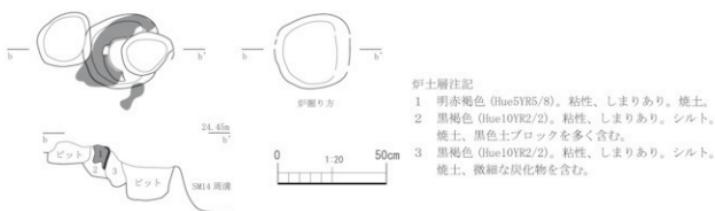
の方形を基調とした平面形を呈すると推測されるが、詳細は不明である。

遺物は埋土中から出土している。230～231は土師器壺である。230はく字に屈曲する口縁部を有し、外面に斜位のハケメが施される。231はゆるやかに外反する口縁部を有し、内面に縱位のケズリが施される。232～235は土師器壺である。232～234は碗形の器形を呈するものである。234は外面にケズリが、内面にハケメが施される小型の壺である。236は土師器鉢と考えられる底部である。外底面に木葉痕が認められる。237は須恵器壺である。断面台形の高台を有し、底部が厚みをもつ。



土層注記

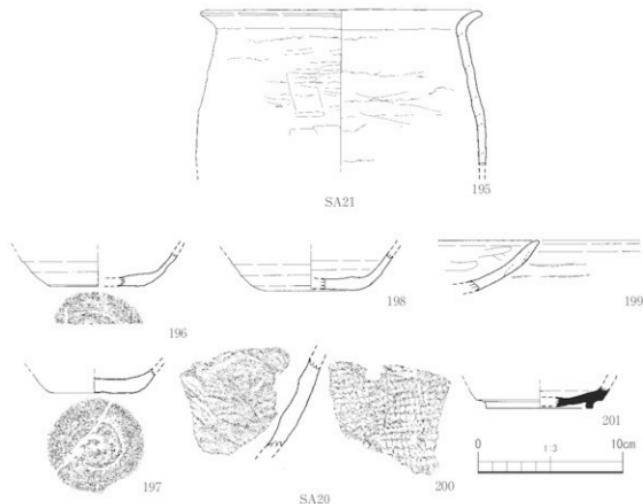
- 1 黒褐色 (Hue10YR3/2)。表土
- 2 黒褐色 (Hue10YR2/2)。粘性、しまりあり。シルト。アカホヤブロック、微細な土師器片を含む。
- 3 2層に似るが、白色粘土ブロックをわずかに含む。
- 4 黒褐色 (Hue10YR2/2)。粘性ややあり、しまりあり。シルト。アカホヤブロック、微細な土師器片を含む。
- 5 黒褐色 (Hue10YR2/2)。粘性、しまりあり。アカホヤブロックが斑状に混じる。貼床。
- 6 黒褐色 (Hue10YR2/2)。粘性ややあり、しまりあり。シルト。アカホヤブロック、微細な土師器片を含む。
- 7 黒褐色 (Hue10YR2/2)。粘性、しまりあり。シルト。アカホヤブロック、黒色土ブロックが斑状に混じる。貼床。
- 8 黒褐色 (Hue10YR2/2)。粘性ややあり、しまりあり。シルト。アカホヤブロック、微細な土師器片を含む。
- 9 黒褐色 (Hue10YR2/2)。粘性ややあり、しまりあり。シルト。微細なアカホヤ粒子、微細な土師器片を含む。
- 10 黒褐色 (Hue10YR2/2)。粘性、しまりあり。シルト。大粒のアカホヤブロック、微細な土師器片を含む。貼床。
- 11 黒褐色 (Hue10YR2/3)。粘性、しまりあり。シルト。アカホヤブロック、微細な土師器片を含む。
- 12 黒褐色 (Hue10YR2/3)。粘性あり、しまりやや強い。シルト。微細な土師器片、焼土片を微量含む。



第52図 B区竪穴住居20・21実測図 (S= 1/40)、土器埋設炉実測図 (S= 1/20)

竪穴住居26(第57~58図、第60図) B区北側で検出された。竪穴住居25と周溝墓1に先行する。竪穴住居27との先後関係は明らかにし得なかった。東南隅以外は土層から復元したものであり、全体の規模は不明であるが方形を基調とする平面形を呈すると推測される。また、住居南西隅に隣接して焼土とにぶい褐色粘土を多く含む土坑1が存在する。検出段階では竪穴住居26に付属するカマドの可能性が考えられたが、掘削の結果両者が同一のものであるかは判断がつかなかつた。ここでは竪穴住居26に付属する土坑として取り上げておくにとどめたい。

遺物は埋土中から出土している。215~217は土師器壺である。216はゆるやかに外反する口縁部形状である。217は底部で、熱を受け赤変している。218は土師器壺である。219は須恵器



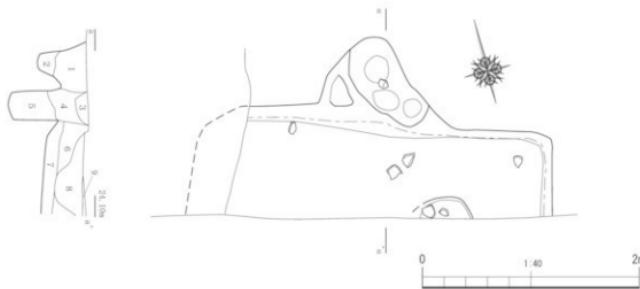
第53図 B区竪穴住居20・21出土遺物実測図 (S= 1/3)

坏である。断面方形の高台を有する。220は須恵器蓋である。宝珠つまみを有し、天井部から直線的に端部まで至り、端部が下方に拡張する。

竪穴住居27(第57~58図、第61図) B区北側で検出された。周溝墓1に先行する。竪穴住居26と重複するが、先後関係は明らかにし得なかった。土層断面の観察とわずかに確認できた掘り方面により検出したもので、全体の規模は不明だが平面形は方形を基調とするものであろう。埋土中にカマド構築材のにぶい褐色粘土が散在している。検出段階では北側に隣接する土坑2がこの住居に付属するカマドである可能性が考えられたが、掘削の結果両者が同一のものであるかは判断がつかなかった。ここでは竪穴住居27に付属する土坑として取り上げておくにとどめたい。

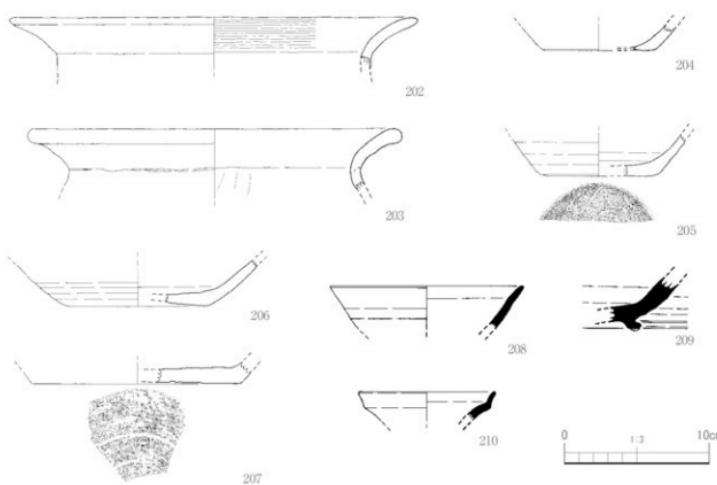
遺物は少量出土している。212は土師器甕で、外反する口縁部の破片である。213は土師器坏である。碗形の器形を呈する。214は須恵器蓋である。平坦な天井部から直線的に端部に至り、端部が下方にわずかに拡張する。238は土坑2から出土した須恵器坏である。口縁部がわずかに外反する。

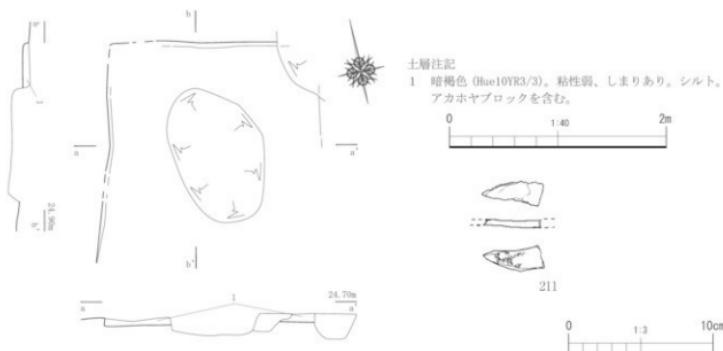
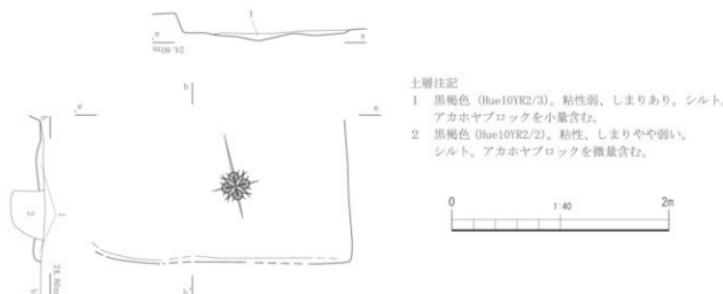
竪穴住居28(第57~58図、第62~63図) B区北側で検出された。竪穴住居30より後出し、竪穴住居25に先行する。竪穴住居29との先後関係は、土質が近似していたため検討に困難を伴ったが、土層断面観察からは竪穴住居29が後出するものと思われる。全体の規模は不明であるが、平面形は方形を基調とするもので、北辺中央部が外側に拡張する。住居中央から北側寄りにカ



土層注記

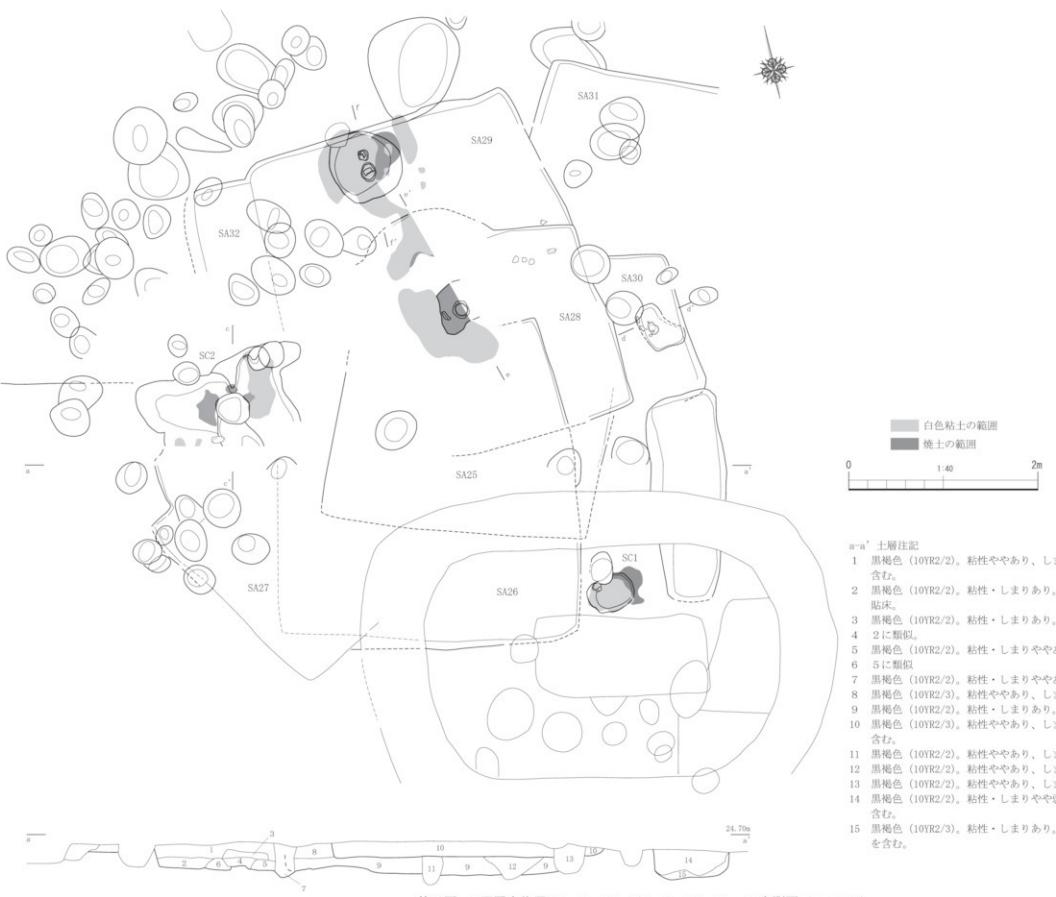
- 1 暗褐色 (Hue7.5YR3/3)。粘性、しまりや弱い。シルト。アカホヤ粒子を含む。
- 2 暗褐色 (Hue10YR3/3)。粘性弱、しまりやや弱い。シルト。
- 3 暗褐色 (Hue10YR3/4)。粘性弱、しまり強い。シルト。土師器片を含む。
- 4 黒褐色 (Hue10YR2/3)。粘性弱、しまりやや弱い。シルト。アカホヤ粒子を含む。
- 5 黑褐色 (Hue10YR2/2)。粘性弱、しまり強い。シルト。
- 6 極暗褐色 (Hue7.5YR2/3)。粘性あり、しまりやや弱い。シルト。アカホヤブロック、土師器片を含む。
- 7 極暗褐色 (Hue7.5YR2/3)。粘性あり、しまり強い。シルト。アカホヤブロックを多く含む。粘床。
- 8 黒褐色 (Hue10YR2/3)。粘性弱、しまり強い。シルト。焼土、白色粒子を多く含む。
- 9 棕色 (Hue10YR4/4)。粘性弱、しまり強い。シルト。焼土、白色粒子、土師器片を多く含む。

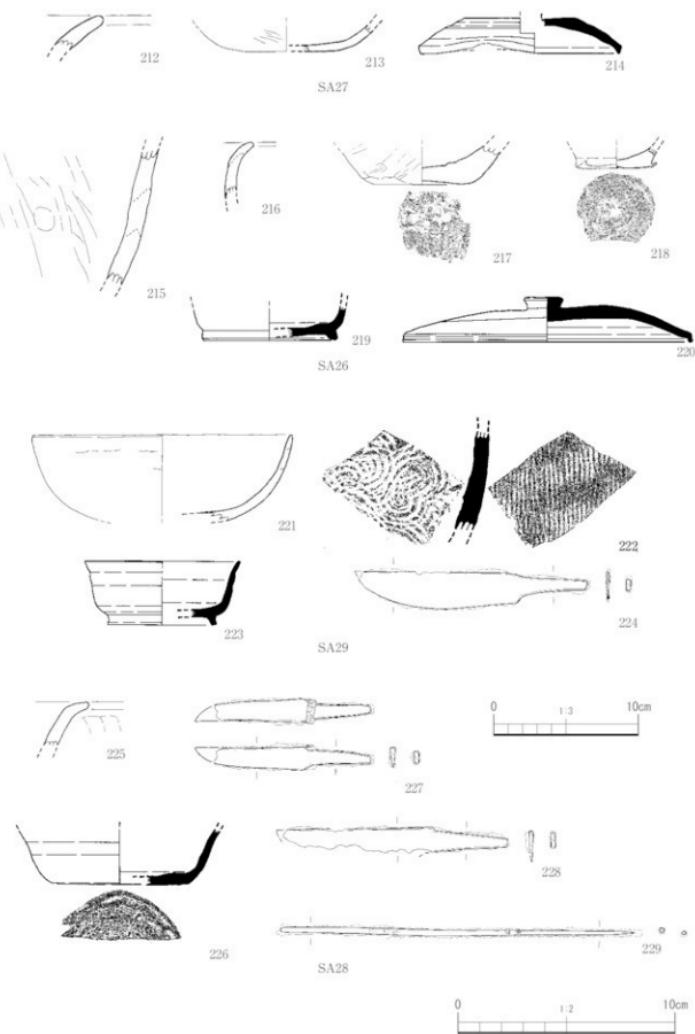
第54図 竪穴住居22実測図 ($S=1/40$)、出土遺物実測図 ($S=1/3$)

第55図 B区竪穴住居23実測図 ($S = 1/40$)、出土遺物実測図 ($S = 1/3$)第56図 B区竪穴住居24実測図 ($S = 1/40$)

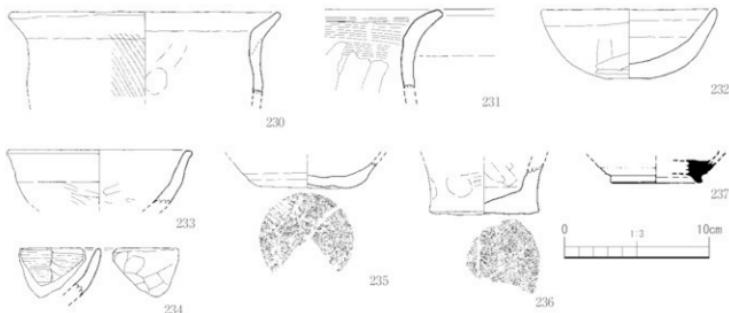
マドが設置されている。埋土中にびい褐色粘土と焼土の広がりが認められたが、掘削の結果カマド上部構造は残存していなかった。しかし、支脚として設置された土師器甕は残存していた。この設置された甕周辺の床面は、はそはそした質感にびい褐色粘土と焼土を突き固めたものを貼床としていることから、カマドの造り替えが想定される。カマド掘り方は不定形である。

遺物は埋土中と床面から出土している。225は土師器甕である。く字に短く屈曲する口縁部破片である。226は須恵器坏である。高台を持たず、胴部がわずかにS字状に立ち上がる形状である。227～228は刀子である。基部に木質が残存している。229は棒状鉄製品である。繊維状の付着物が認められることから、紡錘車の軸部といった糸紡ぎに関連するものと推測される。239～241はカマド周辺から出土した遺物である。239はカマドに設置された甕である。く





第58図 B区竖穴住居27・26・29・28出土遺物実測図 (S= 1/3 · S= 1/2)



第59図 B区竪穴住居25出土遺物実測図 (S= 1 / 3)

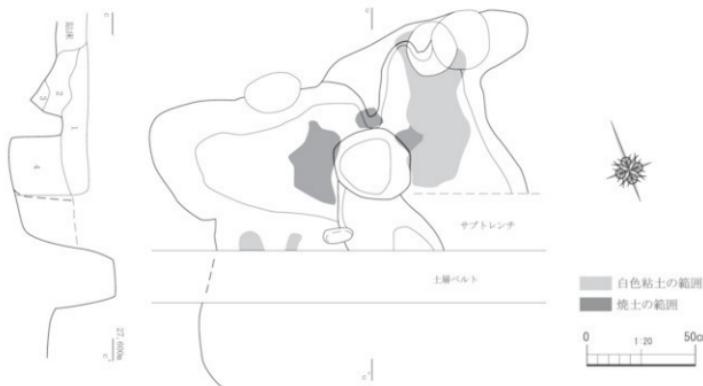
外反する口縁部を有するもので、胴部下半を打ち欠いて用いている。240は土師器壺である。く字にみじかく屈曲する口縁部を有する。241は布痕土器である。ユビオサエ痕を顕著に残す。竪穴住居29(第57~58図、第62~63図) B区北側で検出された。竪穴住居28、31、32より後出し、竪穴住居25に先行する。全体の規模は不明であるが、平面形は方形を基調とするものであろう。北辺中央部にカマドが設置されている。埋土中ににぶい褐色粘土と焼土の広がりが認められたが、掘削の結果カマド上部構造は残存していなかった。しかし、支脚として設置された土師器壺は残存していた。カマド掘り方は円形である。土層断面をみると、カマド埋土中に掘り返しの痕跡が認められ、その中に土師器壺(243)が置かれた状態で出土している。カマド廃棄に関わる祭祀に伴うものであろう。

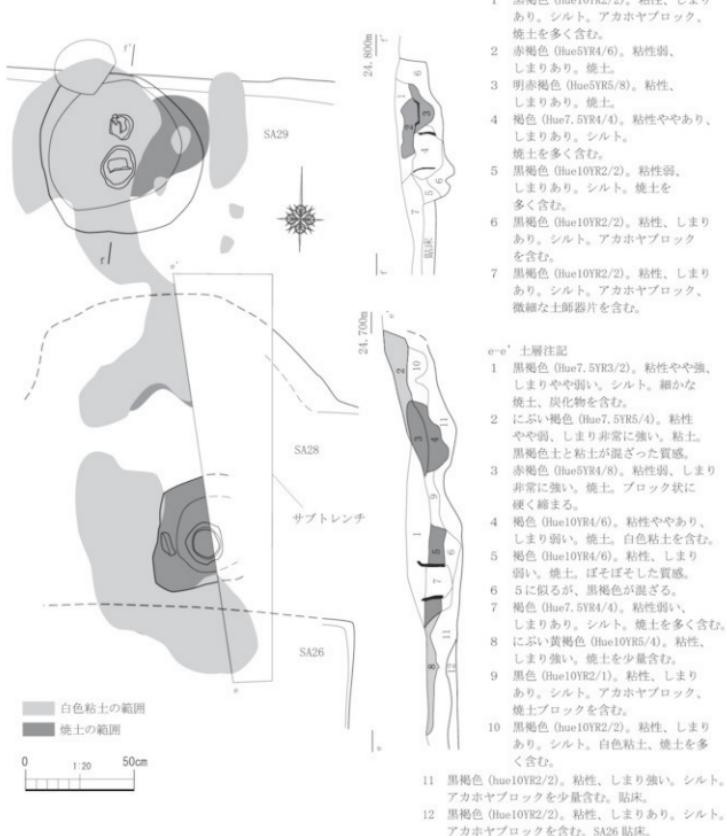
遺物は埋土中と床面から出土している。221は土師器壺である。碗形の器形を呈する。222は須恵器壺である。小破片であり全体の形状は不明瞭である。223は須恵器壺である。断面台形の高台を有し、口縁部がわずかに外反する。224は刀子である。242はカマドに設置された土師器壺である。く字に屈曲する口縁部を有し、ヨコナデにより頸部に明瞭な段を有する。外面は縦位のケズリを施す。243は土師器壺である。外面にケズリを施し、口縁部はヨコナデにより整形される。内面はミガキが施されている。胴部外面に記号文と思われる線刻が施されている。内外面に煤が付着している。

竪穴住居30(第57図、第64図) B区北側で検出された。竪穴住居25、28に先行する。竪穴住居31との先後関係は削平のため明らかにし得なかった。全体の規模は不明であるが、平面形は方形を基調とするものであろう。住居東辺付近に土器埋設炉が設置されている。

遺物は少量しか出土しておらず、図化に耐えうるものは土器埋設炉に設置された土師器壺のみである。244は土師器壺の胴下半部で、端部が外に強く張り出しひびつな平底を有する。熱を受けて赤変している。

竪穴住居31(第57図) B区北側で検出された。東側は搅乱坑によって、南側は削平により消失している。竪穴住居29に先行する。竪穴住居30との先後関係は削平のため明らかにし得な

第60図 土坑1実測図 ($S=1/20$)第61図 土坑2実測図 ($S=1/20$)、出土遺物実測図 ($S=1/3$)

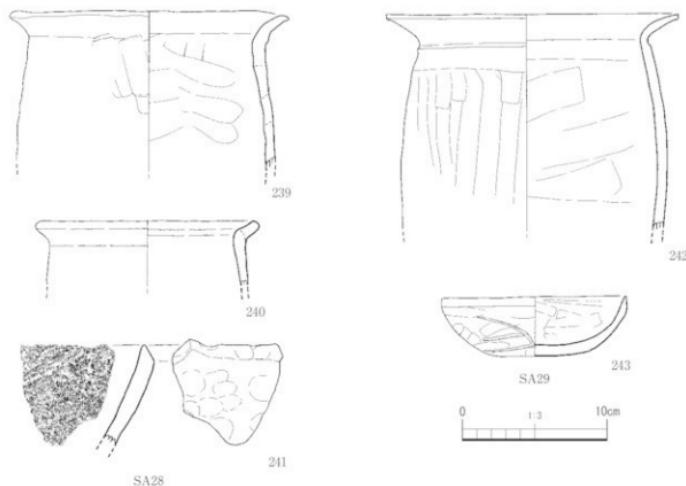


第62図 B区竪穴住居29カマド・竪穴住居28カマド実測図 (S= 1/20)

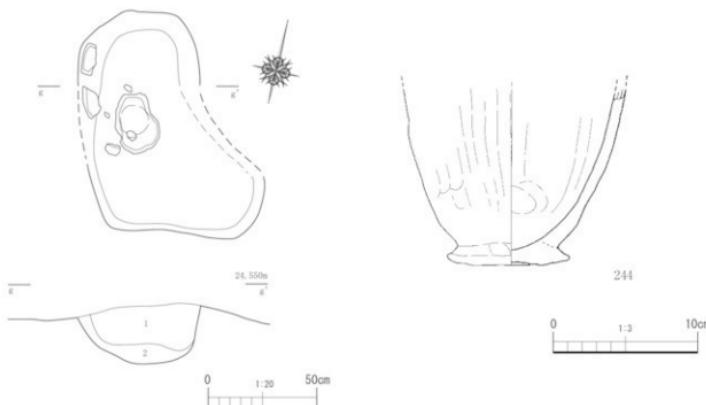
かった。遺物は少量しか出土しておらず、図化に耐えうるものはない。

竪穴住居32(第57図) B区北側で検出された。竪穴住居29に先行する。竪穴住居は柱穴、搅乱坑が密集する部分にあり、住居北東隅のみしか残存していない。全体の規模は不明瞭であるが、平面形は方形を基調とするものであろう。遺物は出土していない。

第65～66図は竪穴住居25～32一括出土遺物である。先述の通り平面観察では個別遺構の検



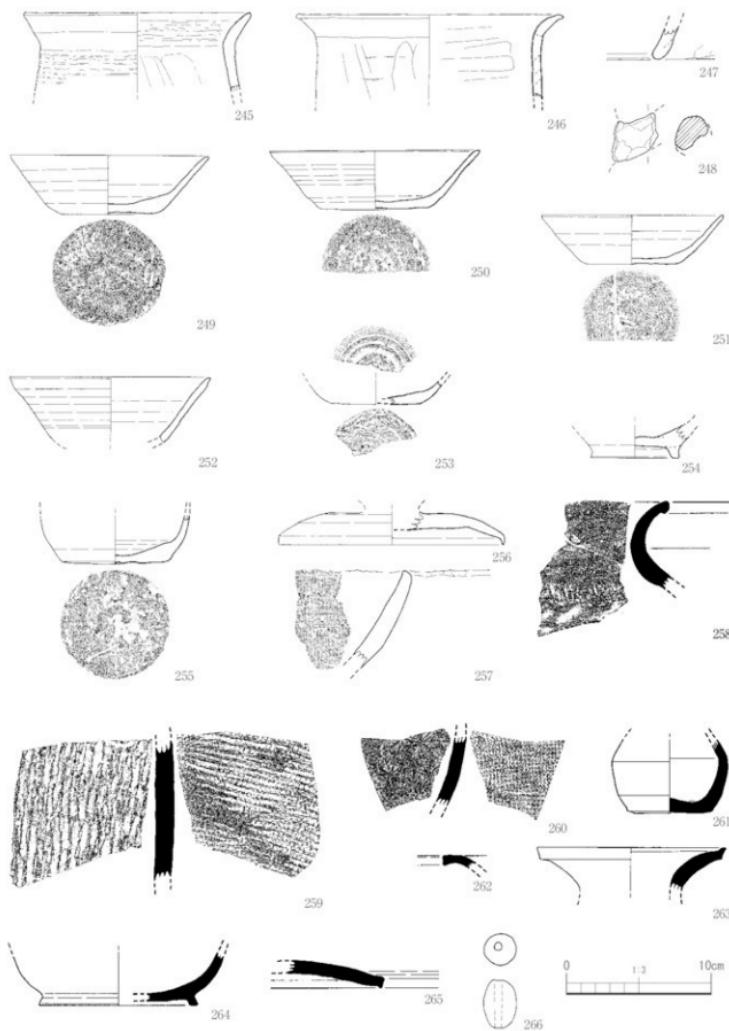
第63図 B区竪穴住居28カマド・29カマド出土遺物実測図 (S= 1 / 3)



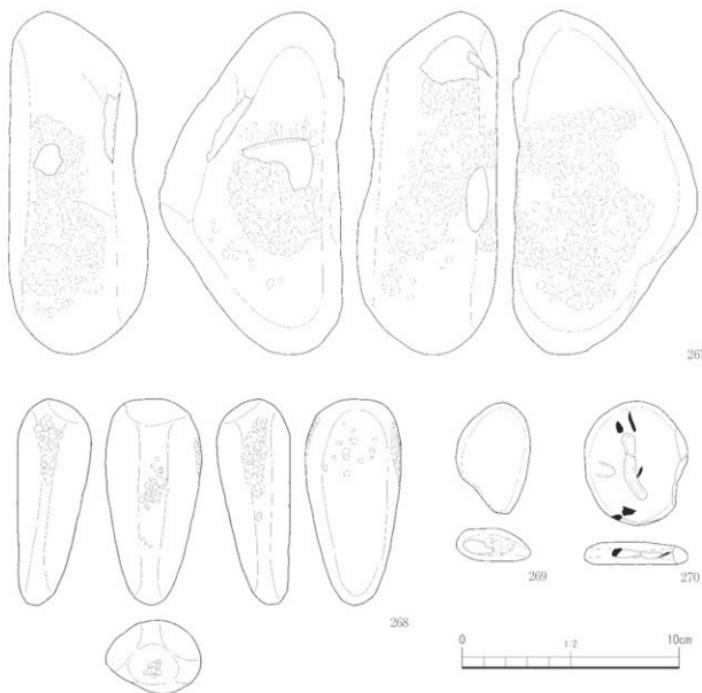
土層注記

- 1 黒褐色 (Hue10YR2/3)。粘性弱、しまり強い。シルト。焼土、アカホヤブロックを多く含む。
- 2 黒褐色 (Hue10YR2/3)。粘性弱、しまり強い。シルト。焼土を少量含む。

第64図 B区竪穴住居30土器埋設炉実測図 (S= 1 / 20)、出土遺物実測図 (S= 1 / 3)



第65図 B区竪穴住居25・26・27・28・29・30・31・32一括出土遺物実測図 (S= 1 / 3)



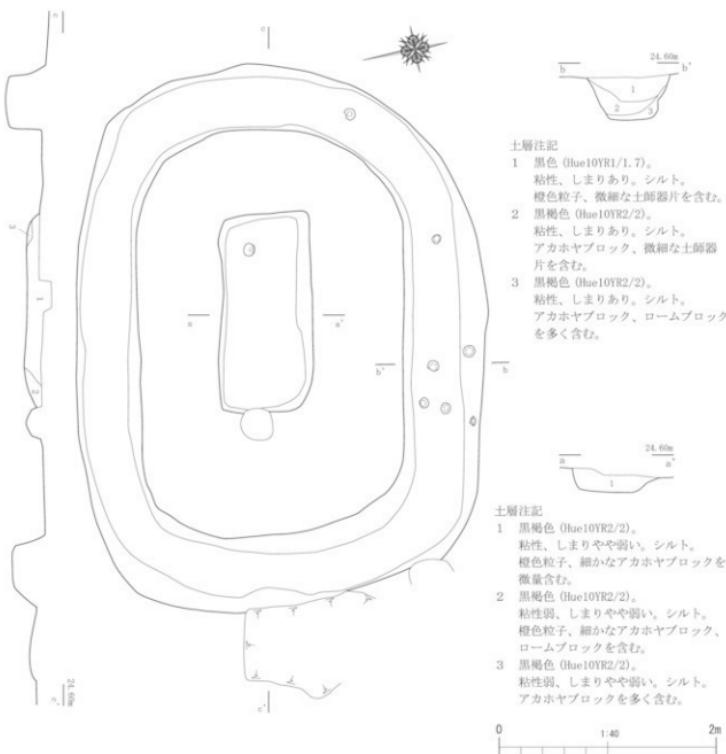
第66図 B区竪穴住居25・26・27・28・29・30・31・32一括出土遺物実測図② (S= 1/2)

出に困難を伴ったため、土層ベルトを残しながら全体の掘削を行ない、土層断面で先後関係を検討する調査方法を取ったため、一括取り上げ遺物が多くなっている。遺物には土師器壺、瓶、壺、蓋、須恵器壺、壺、壺、蓋、土鍤、砂岩製敲石等がみられる。個別遺物の詳細については観察表を参照されたい。

第2項 周溝墓

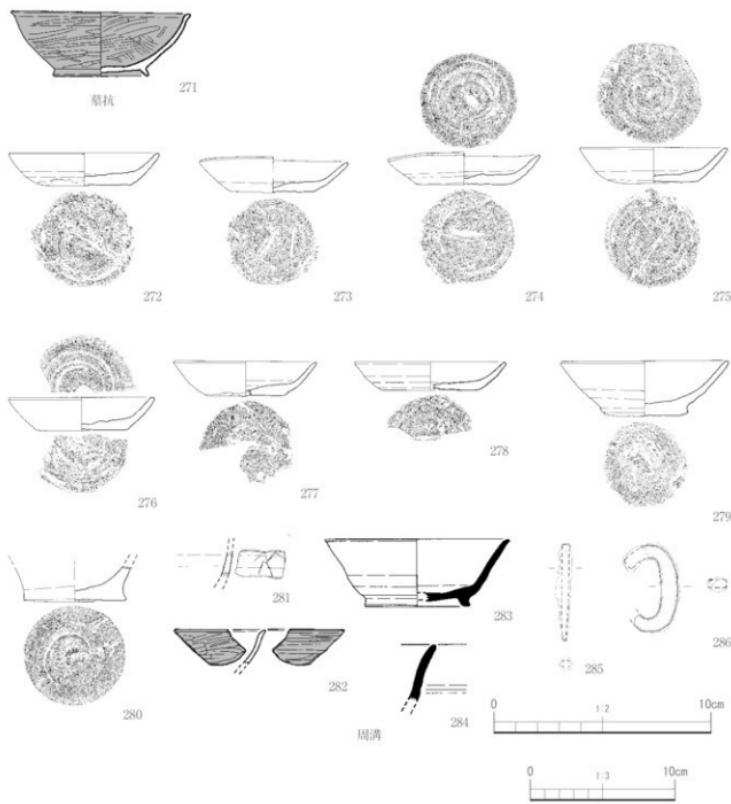
密集する竪穴住居群を切る形で周溝墓が1基検出された。竪穴住居群の埋土よりもやや黒味の強い黒褐色土を周溝埋土としており、遺構が重複する中でも検出は比較的容易であった。本遺構の全体像を把握する目的で、調査区の一部拡張を行なっている。

周溝墓1(第67~68図) B区北側で検出された。竪穴住居18、19、20、21、25、26、27よ



第67図 B区周溝墓 1 実測図 (S= 1/40)

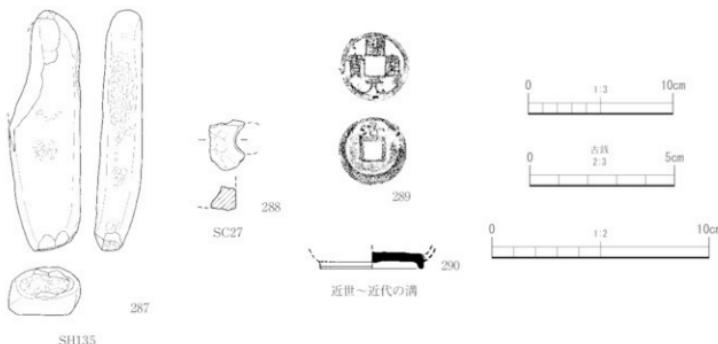
り後出す。西側端部が搅乱坑により消失しているが、残存状況は良好である。西側が搅乱を受けているが、周溝は外縁の長軸が約5m、短軸が3.8mの平面楕円形を呈する。周溝の幅は最大0.75mで、検出面から底面までは0.42mを測る。墓坑は周溝内の中央部や東寄りの位置にあり、長軸約1.8m、短軸0.85mの平面長方形を呈する。床面は墓坑東側がわずかに高くなってしまい、被葬者の頭位方向を示す可能性がある。この東側床面からは被葬者に伴う副葬品とみられる完形の黒色土器B類碗が出土している。また、墓坑検出面から床面まで0.15mと浅いため、本来は周溝内に盛土が存在したものと考えられる。周溝南側に完形の土師器壺がまとまって出土している。床面からはわずかに浮いているが、周溝墓に伴う祭祀行為によるものと推測される。また、周溝東側の埋土中に完形の土師器壺(279)が外底面を上にして出土しているが、床面



第68図 B区周溝墓1出土遺物実測図 (S=1/3・S=1/2)

からかなり浮いているため混入の可能性が考えられる。

遺物は墓坑と周溝内から出土している。271は墓坑から出土した黒色土器B類碗である。全体的に器壁が薄く作られており、器面調整や焼成も精緻である。断面三角形で外方に張り出す細い高台を有し、胴部はやや湾曲しながら外開きに立ち上がり、口縁部下位で傾きを変え上方に立ち上がる。口縁部は端部が短く外反する。内外面には横位のミガキが密に施されている。焼成も良好で器面全体だけでなく器壁内部に至るまで黒色に焼上げられている。272～278は周溝南側出土の土器器環である。いずれも口径10cm前後、器高25cm前後で統一されて



第69図 B区その他遺構出土遺物 (S= 1/3・S= 2/3・S= 1/2)

おり、調整、色調も酷似していることから同一工人の製作も想定される遺物である。平底の底部から外開きに立ち上がる形状で、内底面に回転台成形時の凹凸を明瞭に残している。275には外底面に「×」字のヘラ記号がみられる。279は周溝埋土中出土の土師器壺である。いわゆる円盤状高台を有し、わずかに湾曲しながら外開きに胴部が立ち上がる形状を呈する。280は土師器壺である。外面に煤の付着が認められる。281は土師器壺の胴部破片である。回転台成形で、外面に線刻文様が認められるが、モチーフは判然としない。282は黒色土器B類碗である。墓坑出土のものと特徴が酷似しており、同一型式と考えられる。283～284は須恵器壺である。283は端部がわずかに外に張り出す断面台形の高台を有し、外開きに胴部が立ち上がる形状のものである。口縁端部がわずかに外反する。285は鉄釘である。断面が方形を呈する。286は不明鉄製品である。平面形がC字状を呈し、断面は方形である。下端部が欠損している。

第6節 その他の遺構と遺物（第69図）

ここでは上記以外の遺構出土遺物について報告する。289は近世～近代の溝から出土した銅錢である。銭種は開元通宝であり、裏面に「洛」の字が認められる。その他遺物の詳細については観察表を参照されたい。

第7表 出土土器觀察表①【B区】

編番	番号	出上	種別	法規cm	寸	覆尺	色	調	調					耐火 (上 m 下 m)	備考	実測番号	
									A	B	C	D	E				
p60	第44回	出上	土壁器	柱 1.0倍	既定	高部	外 面	内 面	既成	外 面	内 面						
			土壁器	—	—	—	7.5YR6/4	7.5YR6/4	良好	ヨコナデ 縦位ケズリ	ヨコナデ ナデ	4 —	—	10と同一個体 理設か	11		
		堅穴住	柱 13	—	—	—	にぶい 植	にぶい 植	—	—	—	多	—	脚部タキ成形?			
		柱	—	—	—	—	7.5YR6/4	7.5YR6/4	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	3 —	—	11と同一個体	10		
p62	第46回	出上	土壁器	柱 1.0倍	既定	高部	外 面	内 面	既成	外 面	内 面						
			土壁器	—	—	—	10YR6/4	10YR7/2	良好	回転ナデ 縦位ナデ	縦位ケズリ	4 —	—	理設か	20		
			土壁器	—	—	—	2.5YR7/2	7.5YR5/4	良好	ヨコナデ 縦位ケズリ	ヨコナデ ナデ	1.5 1.5 多 者	—	上縁部内面に被熱痕	3		
			土壁器	—	—	—	2.5YR5/6	2.5YR5/6	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	0.5 —	—	—	9		
			土壁器	—	—	—	7.5YR5/4	7.5YR6/4	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	1 0.5 少 者	—	—	5		
			輪	(11.6)	—	—	にぶい 植	にぶい 植	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	—	—		
			土壁器	—	—	—	7.5YR5/3	7.5YR6/4	90度	回転ナデ ナデ	回転ナデ ナデ	1 0.5 少 者	—	—	1		
		堅穴住	柱 14	15.15	9.2	2.45	にぶい 植	7.5YR7/3	7.5YR7/2	良好	回転ナデ 明治灰	回転ナデ ナデ	—	—	ヘラ切り底	7	
		柱	(12.9)	(6.8)	(3.5)	—	5YR5/4	7.5YR5/4	良好	回転ナデ 明治灰	回転ナデ ナデ	—	—	底部へラ切り下ナデ 外縁に縫、自然状態の 付着物あり	6		
			土壁器	—	—	—	2.5YR5/1	10YR5/3	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	自然袖着	115		
			輪	—	—	—	2.5YR6/1	10YR4/1	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	—	116		
			土壁器	—	—	—	10YR5/1	7.5YR5/2	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	—	114		
			輪	(15.9)	—	—	2.5YR6/2	2.5YR6/1	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	—	111		
			土壁器	—	—	—	2.5YR5/1	2.5YR5/1	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	内面シボ痕あり	112		
			輪	—	—	—	N-6.0	10YR5/1	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	摩減により調整不可解	117		
		堅穴住	柱 15	(15.8)	—	—	2.5YR1/1	2.5YR1/1	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	—	24		
			柱	(11.8)	(5.4)	(2.9)	5YR8/2	5YR8/6	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	ハラ切り底 上縁部赤化色	131		
			土壁器	—	—	—	2.5YR5/1	2.5YR5/1	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	—	113		
			輪	—	—	—	2.5YR5/1	2.5YR5/1	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	摩減により調整不可解	49		
p63	第47回	出上	土壁器	柱 1.0倍	既定	高部	外 面	内 面	既成	7.5YR7/6	7.5YR7/4	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	摩減により調整不可解	49
			輪	—	—	—	7.5YR5/3	7.5YR5/3	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	被熱	48		
		堅穴住	柱 16	—	—	—	にぶい 植	にぶい 植	良好	ヒビササ 縦位ナデ	ヒビササ ナデ	0.5 多 少 者	—	摩減により調整不可解	124		
		柱	—	—	—	—	10YR7/2	5YR7/1	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	—	132		
			土壁器	—	—	—	2.5YR5/1	2.5YR5/1	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	—	133		
			輪	—	—	—	2.5YR7/6	2.5YR7/4	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	摩減により調整不可解	134		
			土壁器	—	—	—	2.5YR5/1	2.5YR5/1	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	—	16		
		堅穴住	柱 17	(10.8)	—	—	5YR7/6	10YR6/3	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	ヘラ切り底 焼成不良の痕跡	14		
		柱	(8.5)	—	—	—	7.5YR8/4	7.5YR8/4	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	0.5 多 少 者	—	被熱 内面全体に焼成着	12		
			土壁器	—	—	—	5YR7/2	7.5YR7/1	良好	ヒビササ 縦位ナデ	ヒビササ ナデ	0.5 多 少 者	—	摩減	15		
			輪	—	—	—	5YR5/1	2.5YR5/1	良好	タクタキ 縦位ナデ	タクタキ ナデ	—	—	当て其痕	118		
p64	第49回	出上	土壁器	柱 1.0倍	既定	高部	外 面	内 面	既成	7.5YR7/2	7.5YR7/2	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	ヘラ切り底	13
			輪	—	—	—	5YR7/2	7.5YR6/4	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	摩減により調整不可解	49		
		堅穴住	柱 18	(6.4)	—	—	10YR7/4	7.5YR7/2	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	被熱	48		
		柱	—	—	—	—	2.5YR7/6	2.5YR7/4	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	摩減により調整不可解	124		
			土壁器	—	—	—	2.5YR5/1	2.5YR5/1	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	—	133		
			輪	—	—	—	5YR7/6	5YR7/6	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	摩減により調整不可解	134		
			土壁器	—	—	—	5YR7/6	7.5YR6/4	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	ヘラ切り底 焼成不良の痕跡	16		
			堅穴住	柱 17	(10.8)	—	5YR7/6	10YR6/3	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	摩減	14		
		柱	(8.5)	—	—	—	7.5YR8/4	7.5YR8/4	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	0.5 多 少 者	—	内面全体に焼成着	12		
			土壁器	—	—	—	5YR7/2	7.5YR7/1	良好	ヒビササ 縦位ナデ	ヒビササ ナデ	0.5 多 少 者	—	被熱	15		
			輪	—	—	—	5YR5/1	2.5YR5/1	良好	タクタキ 縦位ナデ	タクタキ ナデ	—	—	当て其痕	118		
p65	第51回	出上	土壁器	柱 1.0倍	既定	高部	外 面	内 面	既成	7.5YR7/3	7.5YR5/3	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	3 2	脚部下が特に被熱 脚部に内→外への浮き カマド設置	21
			堅	17	7	17.5	7.5YR6/4	10YR8/4	良好	縦位ケズリ	ヨコナデ	多 少	—	—			
		堅穴住	柱 18	(19)	—	—	7.5YR6/4	5YR7/2	良好	ヒビササ 縦位ナデ	ヒビササ ナデ	多 少	—	被熱	47		
		柱	—	—	—	—	10YR5/1	2.5YR7/2	良好	回転ナデ 縦位ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	摩減により調整不可解	122		
			土壁器	—	—	—	7.5YR6/4	10YR6/2	良好	ヒビササ ナデ	ヒビササ ナデ	多 少	—	摩減により調整不可解	33		
			堅	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	摩減により調整不可解		

胎土 A：宮崎小石 B：長石・石英 C：輝石・角閃石 D：雲母 E：黒染

第6節 その他の遺構と遺物

第8表 出土土器観察表② [B区]

図面番号	番号	出土位置	種類	法量 cm ()	復元	色	調査	胎土 (上: am 下: 厘)					備考	実測番号				
								外	面	内	面	A	B	C	D	E		
p.66 第51回	1	壁	土師器	—	—	7.5Y8E-6 禮	7.5Y8E-6 禮	良好	回転ナメ	回転ナメ	—	0.5 少	—	—	—	—	63	
	2	壁穴住居	土師器	—	—	2.5V5-1 灰灰	N 3.0 灰灰	良好	ユビオサエ	—	—	1.5 少	—	—	—	—	64	
	3	壁穴住居	土師器	—	—	7.5Y8E-6 禮	7.5Y8E-6 禮	良好	ユビオサエ	—	—	1.5 少	—	—	—	—	64	
	4	壁穴住居	土師器	(18.8)	—	7.5Y8E-6 禮	7.5Y8E-6 禮	良好	ヨコケズリ→ ナメ	ヨコナメ	3 多	2 少	—	—	—	—	62	
	5	壁穴住居	土師器	—	(6.2)	5Y8E-4 禮	5Y8E-4 禮	良好	回転ナメ	回転ナメ	—	—	—	—	—	—	57	
	6	壁穴住居	土師器	—	(5.1)	7.5Y8E-6 禮	7.5Y8E-6 禮	良好	回転ナメ	回転ナメ	—	—	—	—	—	—	59	
	7	壁穴住居	土師器	—	(6.8)	7.5Y8E-6 禮	7.5Y8E-6 禮	良好	回転ナメ	回転ナメ	—	—	—	—	—	—	58	
	8	壁穴住居	土師器	—	—	2.5V5-6 明規	2.5V5-6 明規	良好	ヨコナメ	ヨコナメ	0.5 多	—	—	—	—	—	107	
	9	壁穴住居	土師器	—	—	5Y8E-6 禮	5Y8E-6 禮	良好	ミガキ	ミガキ	—	—	—	—	—	—	60	
p.68 第53回	10	壁穴住居	土師器	—	—	10Y8S-1 禮	2.5V5-1 灰灰	良好	タクナメ	当て其瓶	1.5 多	0.5 少	—	—	—	—	130	
	11	壁穴住居	土師器	—	—	7.5Y8E-6 禮	7.5Y8E-6 禮	良好	回転ナメ	回転ナメ	—	—	—	—	—	—	—	
	12	壁穴住居	土師器	—	—	10Y8S-1 禮	2.5V5-1 灰灰	良好	タクナメ	当て其瓶	1.5 多	0.5 少	—	—	—	—	130	
	13	壁穴住居	土師器	—	—	7.5Y8E-6 禮	7.5Y8E-6 禮	良好	回転ナメ	回転ナメ	—	—	—	—	—	—	—	
	14	壁穴住居	土師器	—	—	10Y8S-1 禮	2.5V5-1 灰灰	良好	タクナメ	当て其瓶	1.5 多	0.5 少	—	—	—	—	130	
	15	壁穴住居	土師器	—	—	7.5Y8E-6 禮	7.5Y8E-6 禮	良好	回転ナメ	回転ナメ	—	—	—	—	—	—	—	
	16	壁穴住居	土師器	—	—	10Y8S-1 禮	2.5V5-1 灰灰	良好	タクナメ	当て其瓶	1.5 多	0.5 少	—	—	—	—	130	
	17	壁穴住居	土師器	—	—	7.5Y8E-6 禮	7.5Y8E-6 禮	良好	回転ナメ	回転ナメ	—	—	—	—	—	—	—	
	18	壁穴住居	土師器	—	—	10Y8S-1 禮	2.5V5-1 灰灰	良好	タクナメ	当て其瓶	1.5 多	0.5 少	—	—	—	—	130	
p.69 第54回	19	壁穴住居	土師器	(27.5)	—	7.5Y8E-6 禮	7.5Y8E-6 禮	良好	回転ナメ	回転ナメ	2 多	0.5 少	0.5 少	—	—	—	45	
	20	壁穴住居	土師器	(25.2)	—	7.5Y8E-6 禮	7.5Y8E-6 禮	良好	回転ナメ	回転ナメ	1.5 多	1.5 少	1 少	—	—	—	46	
	21	壁穴住居	土師器	(7.2)	—	10Y8E-6 禮	7.5Y8E-6 禮	良好	ナメ	回転ナメ	—	—	—	—	—	—	44	
	22	壁穴住居	土師器	(7)	—	2.5V8T-2 明規灰灰	5Y8E-4 禮	良好	成底ミガキ	ナメ	—	—	—	—	—	—	17	
	23	壁穴住居	土師器	(9.6)	—	7.5Y8E-6 禮	7.5Y8E-5 禮	良好	回転ナメ	回転ナメ	—	—	—	—	—	—	18	
	24	壁穴住居	土師器	(14.4)	—	7.5Y8E-6 禮	10Y8T-7 禮	良好	回転ケズリ	回転ナメ	2 多	1 少	1 少	—	—	—	19	
	25	壁穴住居	土師器	(13.3)	—	2.5V5-2 禮	2.5V5-2 灰灰	良好	回転ナメ	回転ナメ	—	—	—	—	—	—	119	
	26	壁穴住居	土師器	(9.4)	—	10Y8S-1 禮	2.5V5-1 灰灰	良好	回転ナメ	回転ナメ	—	—	—	—	—	—	120	
	27	壁穴住居	土師器	—	—	7.5Y8E-6 禮	2.5V5-1 灰灰	良好	回転ナメ	回転ナメ	—	—	—	—	—	—	121	
p.70 第55回	28	壁穴住居	土師器	—	—	7.5Y8E-6 禮	7.5Y8E-6 禮	良好	—	ナメ	—	—	—	—	—	—	56	
	29	壁穴住居	土師器	—	—	10Y8T-7 禮	7.5Y8E-6 禮	良好	回転ナメ	回転ナメ	2 多	2 少	—	—	—	—	55	
	30	壁穴住居	土師器	—	—	10Y8T-7 禮	7.5Y8E-6 禮	良好	回転ナメ	回転ナメ	—	—	—	—	—	—	37	
	31	壁穴住居	土師器	(13.6)	—	5Y8E-1 灰灰	5Y8E-1 灰灰	良好	回転ナメ	回転ナメ	—	—	—	—	—	—	134	
	32	壁穴住居	土師器	—	—	7.5Y8E-7 禮	10Y8T-3 禮	良好	ナメ	回転ケズリ	—	—	—	—	—	—	30	
	33	壁穴住居	土師器	—	—	7.5Y8E-7 禮	5Y8E-1 灰灰	良好	ナメ	ヨコケズリ	—	—	—	—	—	—	30	
	34	壁穴住居	土師器	—	—	7.5Y8E-7 禮	5Y8E-1 灰灰	良好	ナメ	ヨコケズリ	—	—	—	—	—	—	62	
	35	壁穴住居	土師器	(6.8)	—	10Y8S-1 禮	5Y8E-1 灰灰	良好	ナメ	ナメ	2 少	2 少	—	—	—	—	31	
	36	壁穴住居	土師器	(26)	—	5Y8E-4 禮	5Y8E-2 禮	良好	回転ナメ	回転ナメ	0.5 少	0.5 少	—	—	—	—	61	
p.73 第58回	37	壁穴住居	土師器	(9)	—	2.5V6-1 灰灰	5Y8E-1 灰灰	良好	ナメ	回転ナメ	—	—	—	—	—	—	135	
	38	壁穴住居	土師器	(18)	—	5Y8E-6 禮	2.5V5-6 禮	良好	ヨコナメ	ヨコナメ	—	—	—	—	—	—	54	
	39	壁穴住居	土師器	(29)	—	10Y8T-1 禮	2.5V5-1 灰灰	良好	タクナメ	タクナメ	—	—	—	—	—	—	129	
	40	壁穴住居	土師器	(10.6)	(7.5)	(439)	5Y8E-1 灰灰	2.5V5-1 灰灰	良好	回転ナメ	回転ナメ	—	—	—	—	—	—	133
	41	壁穴住居	土師器	—	—	7.5Y8E-4 禮	7.5Y8E-3 禮	良好	回転ナメ	回転ナメ	4 多	2 少	—	—	—	—	36	
	42	壁穴住居	土師器	—	—	10Y8T-6 禮	2.5V5-2 禮	良好	回転ナメ	回転ナメ	4 多	2 少	—	—	—	—	127	

*胎土 A：宮小石 B：長石、石英 C：輝石、角閃石 D：雲母 E：黒染

第9表 出土土器観察表③ [B区]

発掘番号	出土 位置	種 別	法量 cm ()	復元	色	調 整	動土 (上: am 下: 厘)					備 考	実測 番号			
							外 面	内 面	焼成	A	B	C	D	E		
p.74 第5988	25 土器部 裏	土器部	(182)	—	—	7.5YR6-3	7.5YR6-2	—	良好	ハケメ	ヨコナデ ユビオサエ	0.5	0.5	—	—	上縁部内面に帯状の 被熱痕
		土器部			—	7.5YR7-4	7.5YR7-4	—	良好	回転ナデ 羅位ケズリ	1.5	0.5	0.5	—		
		土器部	(29)	—	—	7.5YR6-2 にぶい粉	7.5YR6-2 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ 羅位ケズリ	多	多	—	—		
		土器部			—	7.5YR6-4	7.5YR6-4	—	良好	ヨコナデ ナデ 羅位ケズリ	ヨコナデ ナデ	少	多	—	—	
		土器部			—	10YR6-4	10YR6-4	—	良好	回転ナデ ミガキ	1	微	微	—	摩滅により調整不可認	
	整穴住 居25	土器部	(12)	475	—	7.5YR5-4	7.5YR5-4	—	良好	ヨコナデ→ 斜	ヨコナデ	0.5	0.5	—	—	被熱
		土器部			—	5YR6-4 にぶい粉	5YR5-3 にぶい粉	灰黒	良好	斜	ヨコナデ ナデ	少	多	—	—	
		土器部	(76)	—	—	5YR5-4	5YR5-4	—	良好	回転ナデ ミガキ	1	微	微	—	摩滅により調整不可認	
		土器部			—	5YR6-4 にぶい粉	5YR5-3 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	1	微	微	—	—	
		土器部			—	5YR5-4 にぶい粉	5YR5-4 にぶい粉	灰黒	良好	ユビオサエ ナデ	1	多	—	—	木の葉底	
p.75 第6180	29 土器29	土器部	(6)	—	—	N.5.0 灰	7.5YR5-1 灰黒	—	良好	回転ナデ ミガキ	1	多	—	—	木の葉底	
		土器部			—	N.5.0 灰	10YR5-1 灰黒	—	良好	回転ナデ ミガキ	1	少	—	—	—	125
		土器部	(29)	—	—	7.5YR6-4 にぶい粉	7.5YR5-3 にぶい粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	ヨコナデ ナデ	少	多	—	—	被熱
		土器部			—	10YR5-3 にぶい粉	10YR5-3 にぶい粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	1	微	微	—	摩滅により調整不可認	32
		土器部			—	5YR5-4 にぶい粉	5YR5-4 にぶい粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	1	少	—	—	—	50
	整穴住 居29	土器部	(76)	—	—	5YR5-4 にぶい粉	5YR5-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	1	多	—	—	木の葉底	
		土器部			—	5YR5-4 にぶい粉	5YR5-4 にぶい粉	灰黒	良好	ユビオサエ ナデ	1	多	—	—	木の葉底	
		土器部	(76)	—	—	5YR5-4 にぶい粉	5YR5-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	1	少	—	—	木の葉底	
		土器部			—	5YR5-4 にぶい粉	5YR5-4 にぶい粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	1	少	—	—	木の葉底	
		土器部			—	5YR5-4 にぶい粉	5YR5-4 にぶい粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	1	少	—	—	木の葉底	
p.77 第6388	29 土器29	土器部	(184)	—	—	7.5YR6-4 にぶい粉	7.5YR5-3 にぶい粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	1.5	1	—	—	カマド設置	
		土器部			—	7.5YR5-4 にぶい粉	7.5YR4-2 にぶい粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	1	少	—	—	カマド設置	
		土器部	(145)	—	—	7.5YR5-3 にぶい粉	7.5YR4-2 にぶい粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	1	多	—	—	鹿鳴会系企業窯 摩滅により調整不可認	
		土器部			—	7.5YR6-4 にぶい粉	7.5YR6-6 粉	灰黒	良好	ヨビオサエ 希	1	少	—	—	摩滅により調整不可認	
		土器部			—	7.5YR6-4 にぶい粉	10YR5-3 にぶい粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	1	少	—	—	カマド設置	
	整穴住 居29	土器部	(202)	—	—	7.5YR6-4 にぶい粉	7.5YR5-3 にぶい粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	1	少	—	—	カマド設置	
		土器部			—	5YR7-2 明灰	5YR4-3 にぶい粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	0.5	—	—	—	カマド付着	
		土器部	(76)	—	—	5YR7-2 明灰	5YR4-3 にぶい粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	1	少	—	—	カマド設置	
		土器部			—	5YR7-2 明灰	5YR4-3 にぶい粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	1	少	—	—	カマド設置	
		土器部			—	5YR7-2 明灰	5YR4-3 にぶい粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	1	少	—	—	カマド設置	
p.78 第6588	29 居30	土器部	(82)	—	—	7.5YR6-4 にぶい粉	10YR5-3 にぶい粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	3	2	—	—	被熱	
		土器部			—	7.5YR6-4 にぶい粉	7.5YR5-3 にぶい粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	3	多	—	—	埋設か	
		土器部	(156)	—	—	7.5YR6-4 にぶい粉	2.5YR5-6 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ 羅位ケズリ	3	1.5	—	—	被熱	
		土器部			—	7.5YR5-4 にぶい粉	7.5YR5-4 にぶい粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	2	1.5	—	—	被熱	
		土器部			—	7.5YR5-3 にぶい粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	2	—	—	—	内面に塗付着	
	整穴住 居30	土器部	(179)	—	—	5YR5-4 にぶい粉	5YR5-4 にぶい粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	2	1.5	—	—	被熱	
		土器部			—	5YR5-3 にぶい粉	5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	2	—	—	—	被熱	
		土器部	(76)	(41)	—	5YR6-6 粉	5YR6-6 粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	2	—	—	—	被熱	
		土器部			—	5YR6-6 粉	5YR6-6 粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	0.5	—	—	—	把手	
		土器部			—	5YR6-6 粉	5YR6-6 粉	灰黒	良好	ヨコナデ ミガキ	—	—	—	—	把手	
p.79 第6488	29 居30	土器部	(136)	6.4	4.05	7.5YR6-4 にぶい粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	3	—	—	—	ヘラ切り底 外周に自然軸状の付着 物あり	
		土器部			—	7.5YR6-4 にぶい粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	3	—	—	—	ヘラ切り底 外周に自然軸状の付着 物あり	
		土器部	(144)	(76)	—	5YR6-6 粉	5YR6-6 粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	3	—	—	—	ヘラ切り底	
		土器部			—	5YR6-6 粉	5YR6-6 粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	3	—	—	—	ヘラ切り底	
		土器部			—	5YR6-6 粉	5YR6-6 粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	3	—	—	—	ヘラ切り底	
	整穴住 居30	土器部	(138)	—	—	7.5YR6-6 粉	7.5YR5-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	被熱	
		土器部			—	7.5YR6-6 粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	被熱	
		土器部	(156)	—	—	10YR6-3 にぶい粉	10YR6-3 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	被熱	
		土器部			—	5YR6-6 粉	5YR6-6 粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	内面に染み状の塗付着 物あり	
		土器部			—	5YR6-6 粉	5YR6-6 粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	内面に染み状の塗付着 物あり	
p.80 第6588	32 居32	土器部	(74)	—	—	7.5YR6-6 粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	被熱	
		土器部			—	7.5YR6-6 粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	被熱	
		土器部	(74)	—	—	7.5YR6-6 粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	被熱	
		土器部			—	7.5YR6-6 粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	被熱	
		土器部			—	7.5YR6-6 粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	被熱	
	整穴住 居32	土器部	(156)	—	—	10YR6-3 にぶい粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	内面に染み状の塗付着 物あり	
		土器部			—	7.5YR6-4 にぶい粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	内面に染み状の塗付着 物あり	
		土器部	(595)	34	—	5YR6-6 粉	5YR6-6 粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	土器片?	
		土器部			—	5YR6-6 粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	土器片?	
		土器部			—	5YR6-6 粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	当て具瓶	
p.81 第6588	32 居32	土器部	(138)	—	—	7.5YR6-6 粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	被熱	
		土器部			—	7.5YR6-6 粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	被熱	
		土器部	(62)	—	—	7.5YR6-6 粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	被熱	
		土器部			—	7.5YR6-6 粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	被熱	
		土器部			—	7.5YR6-6 粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	被熱	
	整穴住 居32	土器部	(74)	—	—	7.5YR6-6 粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	被熱	
		土器部			—	7.5YR6-6 粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	被熱	
		土器部	(156)	—	—	10YR6-3 にぶい粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	内面に染み状の塗付着 物あり	
		土器部			—	7.5YR6-4 にぶい粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	内面に染み状の塗付着 物あり	
		土器部			—	7.5YR6-4 にぶい粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	内面に染み状の塗付着 物あり	
p.82 第6588	32 居32	土器部	(138)	—	—	10YR6-3 にぶい粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ ミガキ	—	—	—	—	被熱	
		土器部			—	7.5YR6-4 にぶい粉	7.5YR6-4 にぶい粉	灰黒	良好	回転ナデ 						

第6節 その他の遺構と遺物

第10表 出土土器観察表④【B区】

尚載番号	番号	出土位置	種別	法量 cm ()	復元	色調	焼成	調整		胎土 (上:an 下:厚)					備考	実測番号
								外面	内面	A	B	C	D	E		
p.78 第658号	29	土坑 21	須恵器 甕	—	—	7.5Y5R-1 灰白 灰	7.5Y5R-1 灰白 灰	堅板	タタキ→ ミガキ	当て具板	—	0.5	—	0.5	—	138
	30	—	須恵器 甕	—	—	5Y6-1 灰	5Y5-1 灰	堅板	タタキ	当て具板	—	微	—	—	—	139
	31	—	須恵器 甕	(5.7)	—	2.5Y6-1 N 4.0 黄白 灰	2.5Y3-1 N 4.0 黑褐	堅板	回転ナデ	回転ナデ	—	微	—	—	—	146
堅穴住 第658号 32 法		25-2	須恵器 甕	—	—	2.5Y6-1 N 4.0 黄白 灰	2.5Y6-1 N 4.0 黄白 灰	堅板	回転ナデ	回転ナデ	—	微	—	—	—	142
	33	—	須恵器 甕	(13)	—	5Y4-1 灰	10Y5-1 灰白 灰	堅板	回転ナデ	回転ナデ	—	0.5	—	—	—	143
	34	—	須恵器 甕	—	(10.9)	2.5Y5-1 N 4.0 黄白 灰	2.5Y5-1 N 4.0 黄白 灰	堅板	回転ナデ	回転ナデ	—	微	—	0.5	—	136
	35	—	須恵器 甕	—	—	5Y3-1 灰	5Y3-1 灰	堅板	回転ナデ	回転ナデ	—	微	—	0.5	—	140
	36	—	土被器 蓋	3.35	22	高火候 大入長 蓋大長	10Y4-1 灰白 灰	真好	ユビオサエ ミガキ	—	—	—	0.5	—	—	40
p.81 第683号	21	周溝 1号	土被器 蓋	12.4	6.6	4.45	5R7P-1 灰白 灰	N 3.0 真好	回転ナデ→ ミガキ	回転ナデ	—	0.5	—	—	—	86
	22	—	土被器 蓋	10.1	6.8	2.3	7.5Y3R-4 にぶい粉 灰白	10Y4R-2 灰白	真好	回転ナデ	回転ナデ	—	0.5	—	—	—
	23	—	土被器 蓋	10.2	5.85	2.5	7.5Y3R-4 にぶい粉 灰白	10Y5R-3 にぶい粉 灰白	真好	回転ナデ	回転ナデ	—	1	1	—	—
	24	—	土被器 蓋	10.5	6.6	2.25	7.5Y3R-4 にぶい粉 灰白	10Y5R-3 にぶい粉 灰白	真好	回転ナデ	回転ナデ	—	少	難	—	—
	25	—	土被器 蓋	10.2	6.35	2.5	7.5Y3R-4 にぶい粉 灰白	10Y5R-2 灰白	真好	回転ナデ	回転ナデ	—	0.5	—	—	82
	26	—	土被器 蓋	9.55	5.2	2.3	7.5Y3R-4 にぶい粉 灰白	10Y5R-3 にぶい粉 灰白	真好	回転ナデ	回転ナデ	—	0.5	—	—	83
	27	—	土被器 蓋	(9.6)	5.25	2.4	10Y3R-2 灰白	10Y5R-2 灰白	真好	回転ナデ	回転ナデ	—	0.5	—	—	84
	28	—	土被器 蓋	(10.4)	(6.6)	(2)	7.5Y3R-4 にぶい粉 灰白	10Y3R-3 にぶい粉 灰白	真好	回転ナデ	回転ナデ	—	0.5	—	—	85
	29	—	土被器 蓋	11.4	5.95	3.8	7.5Y3R-4 にぶい粉 灰白	7.5Y3R-3 にぶい粉 灰白	真好	回転ナデ	回転ナデ	—	0.5	—	—	87
	30	—	土被器 蓋	—	7.05	—	10Y3R-3 にぶい粉 灰白	7.5Y3R-4 にぶい粉 灰白	真好	回転ナデ	回転ナデ	—	0.5	—	—	90
	31	—	土被器 蓋	—	—	—	7.5Y3R-4 にぶい粉 灰白	7.5Y3R-4 にぶい粉 灰白	真好	回転ナデ	回転ナデ	—	0.5	—	—	79
	32	—	土被器 蓋	—	—	—	N 4.0 灰白	N 3.0 灰白	真好	回転ナデ→ ミガキ	回転ナデ	—	0.5	—	—	88
	33	—	須恵器 甕	(12.7)	(7)	(4.65)	2.5Y5-1 灰白 灰	5Y3-1 灰白 灰	堅板	回転ナデ	回転ナデ	—	少	—	—	—
	34	—	須恵器 甕	—	—	—	2.5Y6-2 灰白 灰	2.5Y6-2 灰白 灰	真好	回転ナデ	回転ナデ	—	微	—	—	147
	35	—	須恵器 甕	—	—	—	2.5Y6-2 灰白 灰	2.5Y6-2 灰白 灰	真好	回転ナデ	回転ナデ	—	少	—	—	148
p.82 第693号	26	土坑 27	土被器 蓋	—	—	—	2.5Y4-2 灰白 灰	—	真好	—	—	—	—	—	ガラス質付着	106
	27	—	土被器 蓋	—	(7)	—	10Y3S-2 灰白 灰	10Y3S-2 灰白 灰	堅板	回転ナデ	回転ナデ	—	微	—	—	—
	28	—	土被器 蓋	—	—	—	2.5Y4-2 灰白 灰	—	真好	回転ナデ	回転ナデ	—	微	—	—	外底面に燃焼付着

※胎土 A：宮崎小石 B：長石・石英 C：輝石・角閃石 D：雲母 E：黒柴

第11表 出土石器計測分類表① [B区]

測定員	番号	測定番号	遺構等	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	実測No.
p.49	第33回	107	Tr1 五層	調片	頁岩	2.8	3.1	0.8	5.2	複合資料①	017
		108	Tr1 五層	調片	頁岩	2.5	1.4	0.7	1.8	複合資料①	013
		109	Tr1 五層	石核	頁岩	6.0	4.7	3.3	97.7	複合資料①	011
		110	Tr1 五層	石核	頁岩	3.9	7.1	5.8	132	複合資料①	004
p.50	第34回	111	Tr1 五層	調片	頁岩	6.7	5.2	2.4	71.5	複合資料①	002
		112	Tr1 五層	調片	頁岩	3.0	3.7	0.8	4.4	複合資料①	009
		113	Tr1 五層	調片	頁岩	3.1	2.7	0.8	4.7	複合資料①	012
		114	Tr1 五層	調片	頁岩	6.4	3.3	1.7	99.7	複合資料①	014
		115	Tr1 五層	調片	頁岩	4.9	3.5	0.7	107	複合資料①	008
		116	Tr1 五層	調片	頁岩	2.7	2.1	0.6	1.5	複合資料①	015
		117	Tr1 五層	調片	頁岩	1.1	1.7	0.4	0.5	複合資料①	006
		118	Tr1 五層	調片	頁岩	1.8	2.1	0.8	2.1	複合資料①	005
		119	Tr1 五層	調片	頁岩	2.9	1.5	1.8	7.1	複合資料①	016
		120	Tr1 五層	調片	頁岩	3.3	2.4	0.7	3.4	複合資料①	003
		121	Tr1 五層	石核	頁岩	4.0	6.6	5.3	122.5	複合資料①	018
		122	Tr1 五層	3.5%/-	頁岩	4.9	3.9	1.5	26.3	複合資料①	010
		123	Tr1 五層	調片	頁岩	4.3	3.3	1.0	8.9	複合資料①	007
p.51	第35回	124	Tr1 五層	調片	頁岩	9.7	7.8	2.2	147.0	複合資料②	033
		125	Tr1 五層	調片	頁岩	6.5	5.1	2.5	67.5	複合資料②	037
		126	Tr1 五層	調片	頁岩	2.4	3.8	0.9	5.2	複合資料②	043
		127	Tr1 五層	調片	頁岩	3.4	4.1	1.3	15.7	複合資料②	040
p.52	第36回	128	Tr1 五層	調片	頁岩	7.7	7.5	2.0	97.5	複合資料②	034
		129	Tr1 五層	調片	頁岩	6.2	7.3	1.9	60.1	複合資料②	032
		130	Tr1 五層	調片	頁岩	2.2	1.7	0.6	1.6	複合資料②	039
		131	Tr1 五層	調片	頁岩	2.9	1.6	0.4	2.2	複合資料②	036
		132	Tr1 五層	調片	頁岩	4.8	2.7	1.3	12.0	複合資料②	031
		133	Tr1 五層	調片	頁岩	1.8	4.2	0.8	4.5	複合資料②	035
		134	Tr1 五層	調片	頁岩	3.7	3.5	1.2	8.8	複合資料②	029
		135	Tr1 五層	調片	頁岩	2.4	3.6	0.9	6.5	複合資料②	028
		136	Tr1 五層	調片	頁岩	5.9	2.4	1.1	12.3	複合資料②	042
		137	Tr1 五層	調片	頁岩	4.4	4.1	1.2	15.8	複合資料②	041
		138	Tr1 五層	調片	頁岩	3.9	4.5	1.4	13.3	複合資料②	030
		139	Tr1 五層	調片	頁岩	3.4	4.9	1.2	15.2	複合資料②	044
p.53	第37回	140	Tr1 五層	調片	頁岩	3.3	2.1	0.6	4.0	複合資料③	024
		141	Tr1 五層	調片	頁岩	4.1	6.0	1.8	53.9	複合資料③	020
		142	Tr1 五層	調片	頁岩	3.0	2.7	0.5	2.9	複合資料③	022
		143	Tr1 五層	調片	頁岩	5.9	3.6	1.5	26.4	複合資料③	026
		144	Tr1 五層	調片	頁岩	3.9	4.3	2.1	41.3	複合資料③	021
		145	Tr1 五層	調片	頁岩	3.2	4.5	1.0	14.1	複合資料③	027
		146	Tr1 五層	調片	頁岩	4.2	4.2	0.7	10.8	複合資料③	023
p.54	第38回	147	Tr1 五層	石核	頁岩	6.6	7.2	5.1	267.5	複合資料③	025
p.55	第39回	148	Tr1 五層	石核	頁岩	7.7	6.5	5.3	299.4		175
		149	Tr1 五層	石核	頁岩	4.1	4.3	4.4	80.1		176
		150	Tr1 五層	3.5%/-	頁岩	3.9	4.1	1.5	20.2		167
		151	Tr1 五層	3.5%/-	頁岩	5.3	5.3	1.4	42.6		171
		152	Tr1 五層	3.5%/-	頁岩	3.3	3.7	1.6	13.0		170
		153	Tr1 五層	3.5%/-	頁岩	5.0	5.6	2.0	61.0		174
		154	Tr2 亂層	調片	頁岩	5.4	2.3	0.7	8.3	細長調片	168
		155	Tr2 一括	調片	頁岩	4.6	2.0	0.7	6.1	細長調片	164
		156	Tr2 亂層	ナイフ形石器	頁岩	2.4	0.9	0.5	0.7		172
p.56	第40回	157	Tr1 五層	敲石	砂岩	10.2	7.3	4.6	415.2	複熱	178
		158	Tr2 亂層	敲石	砂岩	8.9	9.2	4.2	432.3		177

() の値は残存値を示す

第6節 その他の遺構と遺物

第12表 出土石器計測分類表②【B区】

掲載頁	国番号	掲載番号	遺構等	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	実測No.
p.56	第41図	159	整穴住居 25~32-括	磨石	尾鈴山酸性岩	9.0	8.6	4.5	5296	古代の住居に混入 想似有り	158
		160	B層	打製石器	チャート	2.0	1.7	0.4	0.7	欠損	165
		161	B層	打製石器	都島北黒曜石	2.0	1.6	0.3	0.6	欠損	166
p.66	第51図	191	整穴住居 18	鐵石	砂岩	11.9	6.3	6.7	5831	被熱	154
p.79	第66図	267	整穴住居 25~32-括	鐵石	砂岩	15.8	8.5	6.4	10039	被熱	159
		268	整穴住居 25~32-括	鐵石	砂岩	9.5	4.4	3.4	1760		163
		269	整穴住居 25~32-括	鐵石	砂岩	5.1	3.5	1.5	33.3		160
		270	整穴住居 25~32-括	鐵石?	砂岩	5.7	4.8	1.1	45.0	欠損	162
p.82	第69図	287	柱穴 135	鐵石	砂岩	11.2	3.3	2.2	1132	欠損	156

() の値は残存値を示す

第13表 出土鉄器計測分類表【B区】

掲載頁	国番号	掲載番号	出土位置	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	実測No.
p.73	第58図	224	整穴住居 29	刀子	(10.7)	月面 1.7	0.1	13.4	欠損	179
		227	整穴住居 28	刀子	(7.4)	1.1	0.3	8.3	欠損、把部本質残存	181
		228	整穴住居 28	刀子	(10.4)	—	0.2	12.5	欠損	180
		229	整穴住居 28	棒状鉄製品	16.9	0.3	—	5.5	横位に織縫状の有機質付着	182
p.81	第68図	285	印模基 1 回溝	刃	4.5	0.4	—	3.3	断面方形	184
		286	印模基 1 回溝	不明鉄製品	4.0	(2.5)	0.4	7.6	欠損、断面方形	183

() の値は残存値を示す

第14表 出土銭貨計測分類表【B区】

掲載頁	国番号	掲載番号	出土位置	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	実測No.
p.82	第69図	289	古墳~古代の溝	開元通宝	2.4	—	1.0	3.5	裏面に「済」字有り	185

() の値は残存値を示す

写 真 図 版

于 【B区】



B区作業風景



図版8



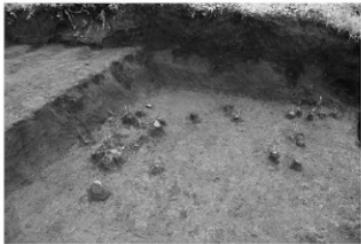
B区全景



B区遺構発掘状況（南東から）



図版9



B区旧石器包含層（IX層）遺物出土状況（西から）



B区砾群1（西から）



B区砾群2（南から）



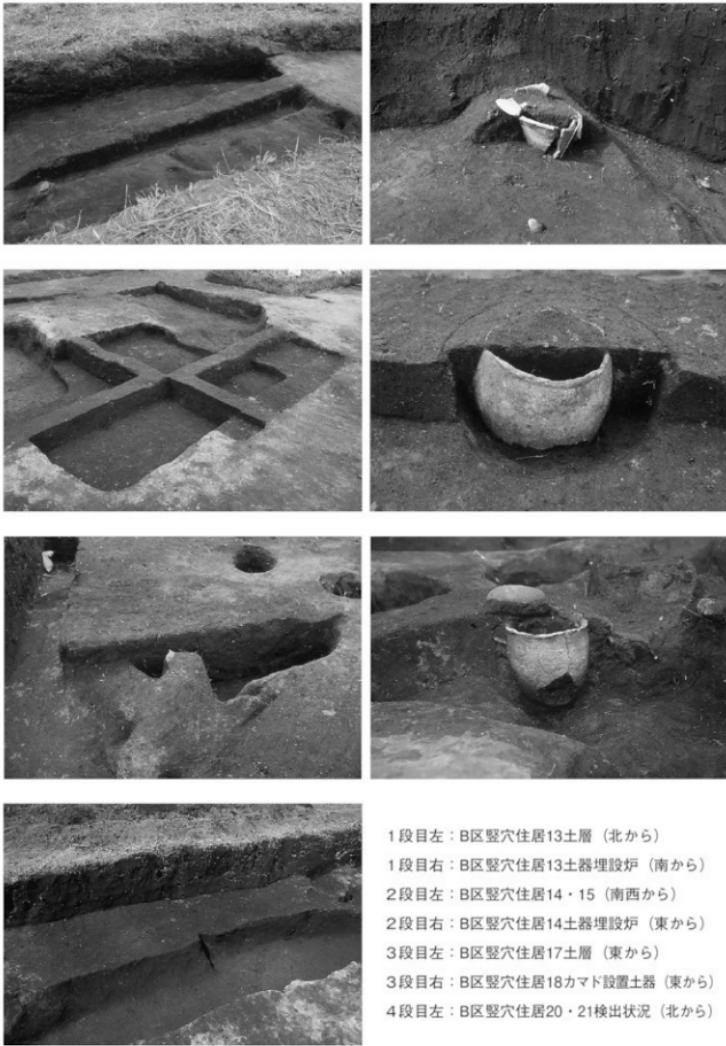
B区旧石器包含層（VII層）遺物出土状況（西から）



B区溝状遺構11・12発掘状況（南東から）



図版10



- 1段目左：B区竪穴住居13土層（北から）
1段目右：B区竪穴住居13土器埋設炉（南から）
2段目左：B区竪穴住居14・15（南西から）
2段目右：B区竪穴住居14土器埋設炉（東から）
3段目左：B区竪穴住居17土層（東から）
3段目右：B区竪穴住居18カマド設置土器（東から）
4段目左：B区竪穴住居20・21検出状況（北から）



図版11



B区竪穴住居21土器埋設炉土層（東から）



B区竪穴住居22土層（北西から）



B区竪穴住居38土器埋設炉（南から）



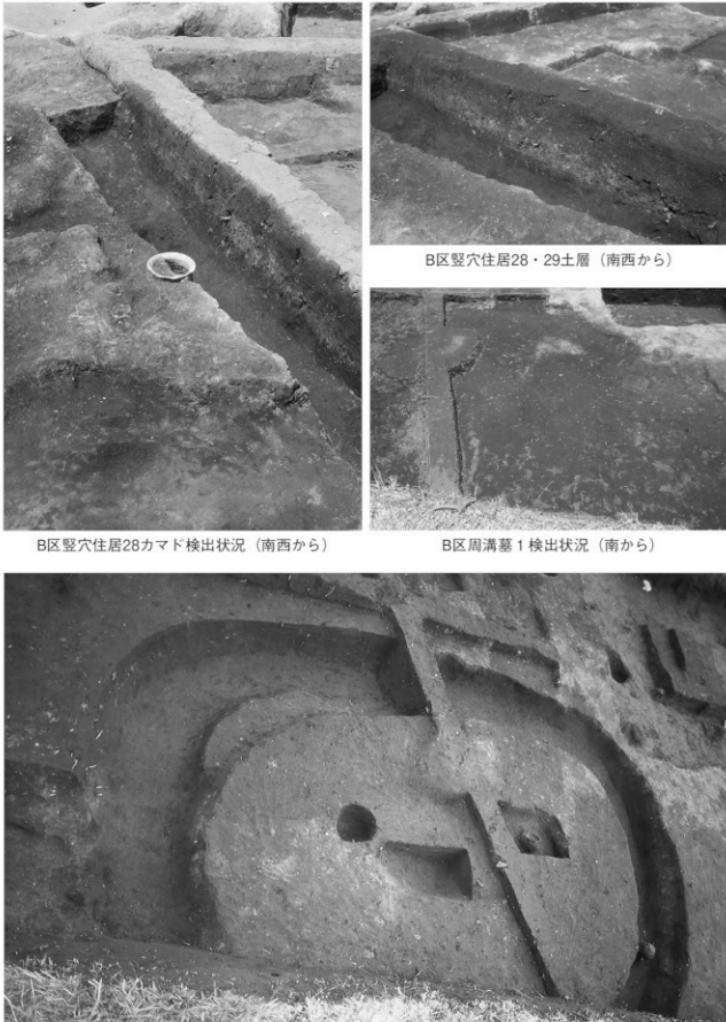
B区竪穴住居22・23・27調査状況（南東から）



B区竪穴住居25～32調査状況（南西から）



図版12



B区竪穴住居28・29土層（南西から）

B区竪穴住居28カマド検出状況（南西から）

B区周溝墓1検出状況（南から）

B区周溝墓1調査状況（南西から）



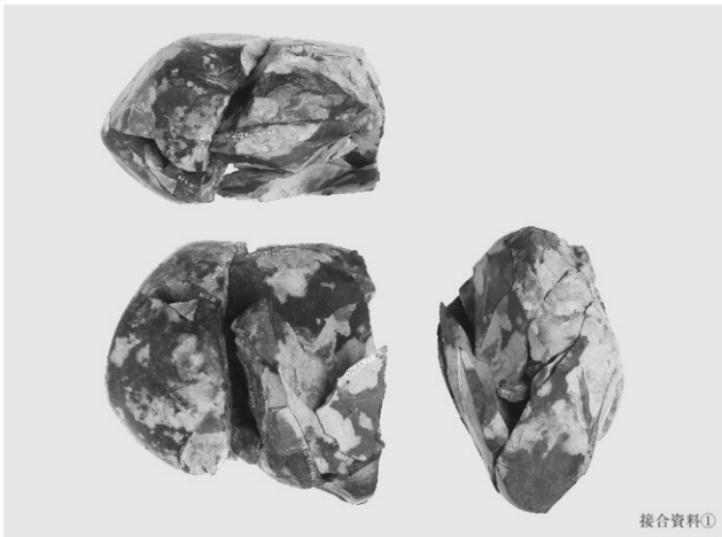
図版13



B区周溝墓1墓坑遺物出土状況（北東から）



B区周溝墓1周溝遺物出土状況（北西から）



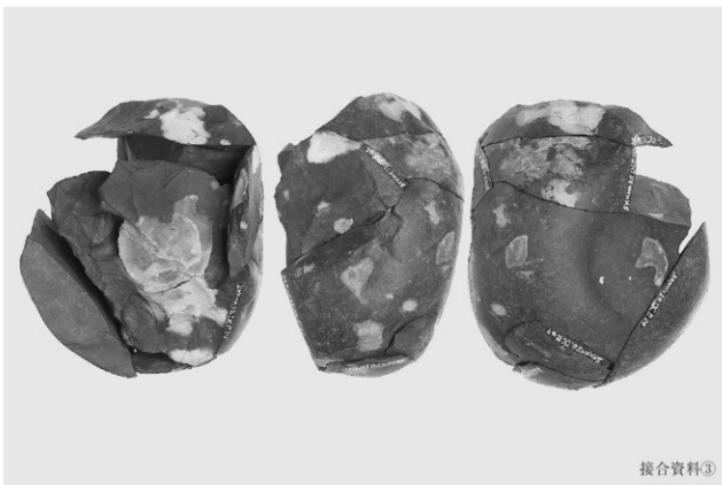
接合資料①

B区旧石器時代包含層出土遺物①

図版14



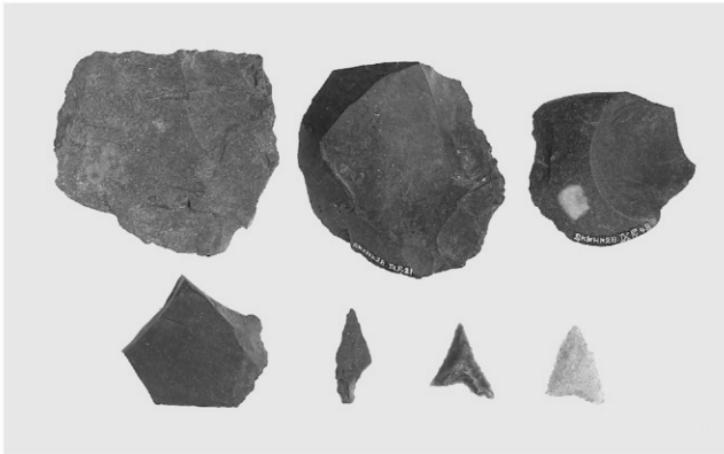
B区旧石器時代包含層出土遺物②



B区旧石器時代包含層出土遺物③



図版15



B区旧石器・縄文時代早期包含層出土遺物①



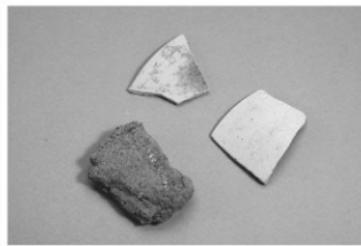
B区旧石器・縄文時代早期包含層出土遺物②



B区竪穴住居13出土遺物



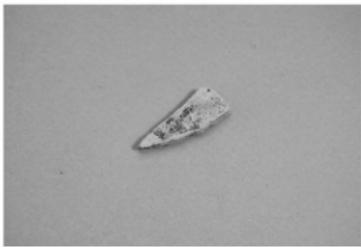
B区竪穴住居14出土遺物



B区竪穴住居16出土遺物



図版16



1段目左：B区竪穴住居17出土遺物

1段目右：B区竪穴住居18出土遺物

2段目左：B区竪穴住居19出土遺物

2段目右：B区竪穴住居20出土遺物

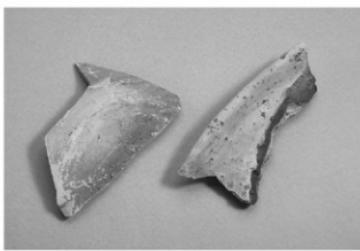
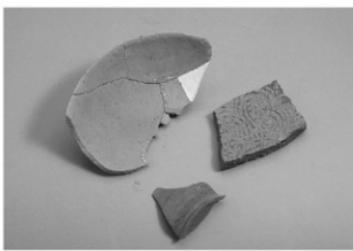
3段目左：B区竪穴住居21出土遺物

3段目右：B区竪穴住居22出土遺物

4段目左：B区竪穴住居23出土遺物



図版17



1段目左：B区竪穴住居27出土遺物

1段目右：B区竪穴住居26出土遺物

2段目左：B区竪穴住居29出土遺物

2段目右：B区竪穴住居28出土遺物

3段目左：B区竪穴住居25出土遺物

3段目右：B区竪穴住居28カマド出土遺物

4段目左：B区竪穴住居29カマド出土遺物



図版18



B区竪穴住居30出土遺物



刀子・棒状鉄製品

B区竪穴住居28・29出土遺物



B区竪穴住居25～32一括出土遺物



B区周溝墓1墓坑出土遺物



B区周溝墓1周溝出土遺物



釘・不明鉄製品

B区周溝墓1周溝出土遺物

第V章 まとめ

第1節 旧石器時代について

本遺跡ではB区から旧石器時代の礫群、石器集中部等が検出された。下北方遺跡群では下郷遺跡のトレンチ1でナイフ形石器や剥片尖頭器、角錐状石器を含む石器84点が出土しており、本遺跡群におけるAT層上位の石器群としてはこれが2例目となる。1トレンチと2トレンチは地形的に独立した位置にあり、両者の石器群は出土層位に違いがあること、また両トレンチ間で接合関係が認められないことから、これらの石器群は別個の文化層の可能性が考えられる。出土石器群の様相をみると、2トレンチⅦ層上位出土の石器群は縦長剥片と小型ナイフ形石器主体であることから、大まかにはナイフ形石器の終末期、宮崎10段階編年の第7段階前後に位置付けられるものであろう。このことは小林降下軽石（Ⅷ層）直下という出土層位とも矛盾しない。一方、1トレンチⅨ層出土石器に含まれる製品類はスクレイパーを主体としたものであり、時期を検討する材料であるナイフ形石器や角錐状石器、瀬戸内技法といった典型的な石器類が含まれていない。AT層上位の第5～7段階のいずれかに属すると考えられるが、詳細な時期については不明と言わざるを得ない。したがってここでは、両トレンチ出土石器群が異なる時期の文化層である可能性を指摘するにとどめた。

1トレンチ石器集中部で出土した接合資料には、素材となる自然礫から目的剥片まで作出するもの（①、③）と、石核あるいは素材剥片を作出し持ち出すもの（②）の2種類がある。接合資料②は自然面を除去した後の石核あるいは素材剥片となる部分が欠落していることから、遺跡外へ持ち出されたと考えられる。また、出土した敲石の重量は400gを越えており、石核調整や素材剥片剥離に用いられたものであろう。使用されている石器石材は頁岩を主体としわざりにホルンフェルスを含むものであり、大淀川下流域でみられる典型的な石材組成である。

今後は下郷遺跡や下郷第6遺跡（平成26年度本発掘調査）で出土した石器群との比較、あるいは地形的に連続性を持つ垂水台地の遺跡群との比較によって、下北方丘陵における旧石器時代の様相を明らかにしていく作業が必要であろう。

第2節 繩文時代早期について

本遺跡からはアカホヤ火山灰層下の暗褐色ローム層から集石造構1基、打製石器等の遺物が少量出土した。しかし、土器の出土がなく詳細な時期については不明である。下北方遺跡群では、下郷遺跡や塚原第3遺跡等で押型文土器や塞ノ神式土器といった土器の出土がみられるが、いずれも少量で造構に伴うものも少ない。繩文時代早期に本丘陵上で人間活動が営まれたことは確実であるが、その実態の解明は今後の課題といえよう。

第3節 古墳時代について

本遺跡では、A区から地下式横穴墓3基とそれに伴う副葬品が検出された。また、A区の柱穴や土坑にも古墳時代の遺物を含むものが少量ある。本遺跡の地下式横穴墓3基は、下北方丘陵における地下式横穴墓のうち「小型で平入りの玄室構造を持ち、副葬品が少ないと群」（西鶴

2010) に分類される。墳丘にも伴わないと考えられ、下北方丘陵における地下式横穴墓の中では妻入り構造で大型の地下式横穴墓よりも相対的に下位のランクに位置付けられる。副葬品については、地下式横穴墓1（23号）で鉄剣とガラス小玉が、地下式横穴墓2（24号）で珠文鏡と石製玉類が出土した一方で、地下式横穴墓3（25号）からは副葬品が出土していない。副葬品について個別にみていくと、23号墓出土鉄剣は把側面に板材をはめ込む溝を持ち、鞘受部を有するものである。豊島直博の把C類かD類に属するものと思われ、前期後半～中期の年代が考えられる。ガラス小玉は大賀克彦のB D II類に分類でき、中期～後期前葉と考えられる。24号墓出土珠文鏡は、珠文2列に鋸歯文が施されるもので、珠文は比較的等間隔で揃っている。外区文様に鋸波文を用いないことから中期のものであろう。これらの遺物から23号墓と24号墓は概ね中期の時間幅に位置付けられるが、詳細な時期比定については今後の研究に委ねたい。

A区の北側に存在したとされる下北方15号墳は確認調査の結果消失していることが判明したが、A区で検出された地下式横穴墓や隣接する花切第1遺跡の土坑墓（5世紀後半）の存在から、周辺にも古墳時代の遺構が残存する可能性が考えられる。

第4節 古代以降について

本遺跡ではアカホヤ火山灰層上面で堅穴住居計32軒と溝状遺構12条、周溝墓1基、多数の柱穴や土坑が検出された。特に堅穴住居はA区、B区共に重複が激しい上、土質が類似していたことから遺構検出には困難が伴った。そのため遺跡情報として必要な記録が一部欠落してしまったことが悔やまれる。

本遺跡の堅穴住居群の時期であるが、出土遺物から全ての住居が8世紀後半～9世紀前半に属すると考えられる。堅穴住居はいずれも平面形が方形を基調としており、住居掘削の際に出土廃土を用いたと思われる貼床を有する点で構造上の共通性を持つ。また、大半のものは住居廃棄時に埋め戻されている。堅穴住居の火床にはカマド、土器埋設炉、地床炉があるが、火床をもたないものも多い。カマドはいずれも天井部～壁面が破壊されており、堅穴住居廃棄に伴ってカマドも取り壊されたと考えられる。土器埋設炉には土師器甕や瓶の胴下半部、あるいは口縁部を打ち欠いたものを設置しており、堅穴住居1西側埋設炉のように複数の甕の破片を組み合わせたと考えられるものもある。土器埋設炉はいずれも貼床構築後に設置されている。

出土遺物を詳しくみると、甕には古墳時代からの系譜をもつ在地系甕と8世紀末～9世紀前葉に出現する回転台成形+内面ヘラケズリの土師器甕（44、50、66、164、202）、いわゆる豊後大分系企球型甕（43、51、85、240）の3種類が認められる。また、堅穴住居29内カマドに設置された甕（242）は、回転台成形で口縁部に強い回転ナデを、外面に縱位のヘラケズリを施し、内面は斜位のナデ調整されるもので、あまり類例をみない甕である。豊後大分系企球型甕は、8世紀後半～9世紀前半に豊後で生産され、広域流通品として日向国にもたらされた甕である。カマドや土器埋設炉に転用される事例も多く、本遺跡でもその傾向と一致した出土状況を示している。土師器甕には被熱して煤や自然釉状の付着物を残すものがあり、これらは灯明具として用いられたものと考えられる。堅穴住居1出土の49は口縁部をユビオサエにより注口状に成形したものだが、これにも自然釉状の付着物が認められる。須恵器には低い器高で罐部がわずかに返りを持つ蓋、断面方形あるいは台形の高台を持ち、甕部形態が低い台形を

呈する坏等がある。いずれもこの時期にみられる典型的な供膳具といえる。また、図化に耐えうるものはわずかであったが、竪穴住居の埋土中に多量の布痕土器の碎片が含まれていた。住居廃棄の際に埋土と共に埋め込まれたものであろう。この布痕土器は被熱痕をもつものが大半であり、中には自然釉状の付着物を残すものもある。その他に特徴的なものとしては、竪穴住居1出土の胴部と底部に焼成後穿孔を施した丸底壺がある。住居廃棄に伴う祭祀行為で用いられたものであろうか。

鉄製品に関しては、竪穴住居1の床面から鎌、紡錘車が、竪穴住居28から刀子、不明棒状鉄製品が、竪穴住居29から刀子が出土している。不明棒状鉄製品には横方向の織維状の付着物がわずかに認められることから、紡錘車の軸か、あるいは糸紡ぎに関わる道具と推測される。紡錘車と共に本遺跡で糸紡ぎに関する作業が行われたことを示唆する遺物である。

竪穴住居群の廃絶後に造営された周溝墓1は、いまだ不明瞭な宮崎平野部における古代墓制を考える上での貴重な事例となった。墓坑から出土した副葬品と考えられる黒色土器B類碗(271)は、形態的特徴から森隆の九州系II類に分類される。また、周溝内に投げ込まれたように出土した土師器坏はいずれも口径10cm前後、器高2.5cm前後で統一されており製作技法上で類似性の高い一群である。これらは堀田孝博の土師器坏A1類に分類できる。周溝墓に伴う祭祀行為によるものと考えられ、墓坑の黒色土器B類碗と共に時期を判断する材料となり得る遺物である。その他の周溝出土遺物は、破片資料が多い上に埋土中からの出土であるため混入の可能性が高いといえよう。周溝埋没時に混入したか、あるいは墳丘盛土内に含まれていたものが流れ込んだと推測される。本遺跡の周溝墓は黒色土器B類碗と土師器坏A1類の年代から10世紀中葉～後葉に造営されたものと考えられる。本遺跡では1基のみ単独で検出されたが、調査区外にも墓域が広がる可能性がある。

溝状遺構については、A区で方形区画を意識したかのような配置のものが検出されている。溝状遺構6、7と溝状遺構8、9であり、両者とも少し位置をずらしてほぼ同じ方向に走っているのが特徴的である。ただしこれらの溝は埋土の特徴が異なるため同時期の所産ではなく、溝状遺構6、7(古)→溝状遺構8、9(新)という先後関係にある。溝内からは遺物の出土が少なく時期比定が難しいが、溝状遺構6から糸切り底の土師器坏が出土していることから中世の溝である可能性が考えられる。

多数検出された柱穴群については、平面分布を検討したところ掘立柱建物を形成するものはみられなかった。遺物がほとんど出土せず時期が不明な柱穴が多いが、A区では一部に古墳時代のものが含まれている。竪穴住居内で柱穴が検出されなかったことから、一部に竪穴住居に伴うものが含まれる可能性があるが、調査では明らかにすることができなかった。

最後に古代の下北方遺跡群における花切第2遺跡の位置付けについて述べておきたい。本遺跡は後世に大規模な造成がなされていたこともあり、検出された遺構は本来の集落の一部にすぎないと考えられる。削平されていたため調査対象とならなかったA区とB区の中間部分にも集落が広がっていたと想定すべきであろう。下北方遺跡群における同時期の集落としては、本遺跡から約350m南東に位置する下郷第4遺跡が挙げられる。8世紀前半～9世紀後半の竪穴住居11軒と掘立柱建物2棟、方形に廻ると考えられる溝状遺構1条が検出されており、出土遺物にはコップ形須恵器や古代瓦といった官衙的性格をうかがわせるものがみられる。本遺跡



第4節 古代以降について

ではこうした官衙的性格をうかがわせる遺構、遺物はみられないものの、堅穴住居が短期間のうちに頻繁に建替えられていることから、下北方遺跡群の中でも中心的な集落か、あるいはそれに近い集落であったと考えられる。9世紀後半になると、本遺跡から200m南に位置する塚原第2遺跡で寺院あるいは役所と思われる掘立柱建物が出現する。また塚原第2遺跡より南に位置する下北方1号墳周辺遺跡、5号墳周辺遺跡でも古代瓦の出土がみられ、この時期には塚原第2遺跡の寺院あるいは役所を中心とした集落が丘陵上に広がっていたと推測される。しかし、花切第2遺跡ではこの時期の遺構はみられず、集落は別の場所に移動したものとみられる。さらに時期が下って10世紀中葉～後葉になると、花切第2遺跡周辺は墓域として利用されるようになり、周溝墓1が造営される。下北方遺跡群ではこの時期の遺構、遺物はほとんど検出されていないが、この周溝墓が造営した集落が花切第2遺跡の周辺に存在する可能性がある。今後、この周溝墓の被葬者像を含めて、宮崎平野部における古代墓制の様相を明らかにしていく必要があるだろう。

参考文献

- 秋成雅博 2014「宮崎県の遺跡群」「九州旧石器」第18号 九州旧石器文化研究会
- 今堀屋穂行 2014「古代の豊前・豊後系土師器・『企球型壺』の軌跡」『宮崎県央地域の考古資料に関する編年研究・東九州道調査以後の新地平』平成26年度宮崎考古学会研究会発表要旨 宮崎考古学会
- 大賀克彦 2002「日本列島におけるガラス小玉の変遷」『小羽山古墳群』清水町埋蔵文化財発掘調査報告書V
- 竹中克繁 2010「日向国における古代土器の変遷・宮崎平野部の須恵器・土師器碗編年」『先史学・考古学論究』V 鹿田考古会
- 豊島直博 2010「研究論集16 鉄製武器の流通と初期国家形成」奈良文化財研究所学報第83集
- 西嶋剛広編 2010「下北方塚原第1遺跡」宮崎市文化財調査報告書第78集 宮崎市教育委員会
- 堀田孝博 2012「宮崎平野部における平安時代の土器について・土師器供膳具を中心として」『宮崎考古』第23号 宮崎考古学会
- 森下章司 2002「古墳時代倭鏡」「考古資料大観 弥生・古墳時代鏡」第5巻 小学館
- 森 隆 1990「西日本の黒色土器生産（中）」「考古学研究」第37卷第3号 考古学研究会
- 宮崎県旧石器文化談話会 2005「宮崎県下の旧石器時代遺跡概観」「旧石器考古学」66 旧石器文化談話会

報告書抄録

ふりがな	しもきたかたはなきりだいにいせき							
書名	下北方花切第2遺跡							
副書名	宅地分譲に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	宮崎市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第106集							
編著者名	河野 裕次							
発行機関	宮崎市教育委員会							
所在地	〒880-0805 宮崎市橋通東1丁目14番20号 TEL (0985) 21-1836							
発行年月日	2015年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	
しもきたかた じ ザくらん 下北方遺跡群	宮崎市 下北方町花切 5681番1他	45201	21-079	31° 56'48" 付近	131° 24'48" 付近	20130130 ~ 20130329 20130430 ~ 20140822	1093m ²	
調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
宅地分譲	旧石器	縄群	… 2基	接合資料 ナイフ形石器 敲石				
				石器 磨石				
	散布地 集落	古墳	地下式横穴墓	… 3基	鉄劍 青銅鏡 勾玉 管玉 棗玉			
古代～中世	溝状遺構	… 10条	… 32軒 周溝墓… 1基	土師器 須恵器 敲石 刀子 筋鉢車 黒色土器				
近世以降			… 4条	古錢				



宮崎市文化財調査報告書第106集

下北方花切第2遺跡

宅地分譲に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2015年3月

発行 宮崎市教育委員会







宮崎市文化財調査報告書第106集
下北方花切第2遺跡 正誤表